

Basic research for Dialect teaching material making based on description of present age Dialect

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Kato, Kazuo メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00034740

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



科学研究費 基盤研究(C)・課題番号 17520295
「現代方言の記述に基づく方言学習教材作成のための基礎的研究」
研究成果報告書
(研究代表者 加藤和夫)

<方言学習教材シリーズ1>

みんなで学ぼう！ 金沢ことば

2007 年 3 月

金沢大学教育学部国語教育講座

加藤 和夫

はじめに一本書を使って下さる先生方と児童・生徒の皆さんへー

本書『みんなで学ぼう！金沢ことば』を手にして下さった皆さんは、金沢の方言、あるいは自分が生まれ育った土地の方言についてどのように思っているのでしょうか。もしかしたら、方言に対してどこかで「はずかしい」とか「田舎くさい」といったマイナスのイメージを持ってはいないでしょうか。

明治時代になって、日本の国の体制が大きく変わり、日本の国を一つにまとめようとしたとき、江戸時代に全国で発達した方言がその大きな障害になると考えられました。その結果、学校教育を中心に標準語教育が進められ、それは戦前まで（一部地域では戦後しばらくも）続きました。本土の方言との違いが大きかった沖縄などでは、「方言札」という罰札まで作って、子どもたちに方言を使わせないようにという教育が行われました。そこで、掲げられたスローガンは「方言撲滅」「方言矯正」というものでした。

このような教育を受けたことで、日本人の多くの人たちは、方言は共通語（標準語）に比べて劣ったことば、悪いことば、汚いことば、といった考え方を持つようになりました。そして、地方の人たちは、自分たちの方言にコンプレックスを持ち、進んで方言を捨てるようになりました。この傾向は 1960 年代以降のテレビを代表とするマスメディアの発達によってますます強まり、全国各地で方言の衰退が急速に進みました。

確かに、全国どこにいても通じる共通語は便利で、今のような時代では必要なものでしょう。しかし、そのことと方言を捨てることは同じである必要はないはずです。私たちは、日本語というものについて考えるとき、もしかすると共通語のことしか考えていないということはないでしょうか。でも、考えてみて下さい。日本語とは、全国に広く通用する共通語と、今もなお全国各地で使われているさまざまな方言との総体であるはずなのです。日本語の豊かさを支えているものは共通語だけでなく方言も含めたものなのです。

わが国では、1970 年代ころから、「地方の時代」といったことが言われるようになり、80 年代あたりからは方言の急速な衰退という危機感も手伝って、全国的に方言見直しの動きがさかんになってきました。そして、学校教育においても、国語科や総合学習を中心に、地域の文化の一つとしての方言の価値や役割について学ぶことの大切さが理解され始めたように思います。

方言のもつ価値・役割にはさまざまなものがありますが、21 世紀の日本語の担い手である小・中学生の皆さん、そして先生方には次のことを理解してもらえたらと思います。

- (1) 生活語としての方言の価値
- (2) 方言を理解し、使うことで方言に自信をもち、地域に自信をもつこと
- (3) 方言が日本語の豊かさを支えていること
- (4) 地方の文化の一部と考えること

(1)については、この本の内容を学ぶ中で、共通語では表現しにくいこと、別の言い方をすれば方言だからこそ表せることがあることを理解してもらえればと思います。金沢ことばの「いじくらしい」「いじつかしい」は共通語ではぴったり置き換えられないことばなのではないでしょうか。私は隣の福井県の出身ですが、大学院生として関東地方で生活し始めて金沢に移り住むまでの 14

年間、塩味が濃いことを言う「くどい」（金沢でも使われます）が使えないことにとても不自由さを感じていました。「しょっぱい」「しょからい」ではどうしても自分の味の感覚が表現しきれない感じがあったからです。

(2)については、1994年から1995年にかけて研究者仲間と全国14都市で方言と共通語に対する意識調査を行い（私は金沢市を担当しました）、その結果を分析する中で強く感じていることです。金沢をはじめとして北陸という地域は、全国的に見ても、自分たちの方言に愛着が薄く自信が持てていない地域と言えそうです。そのことは地域に対する愛着・自信とも密接な関係があるように思いますが、自分たちのことばをよく知り、自信を持つことが、ひいては共通語との違いをよく知り、共通語の上手な話し手にもなれることなのだと考えてほしいと思います。

(3)についてはすでに書いたとおりです。方言も大切な私たちの母語、日本語の一部なのであり、その豊かなバリエーションがすなわち日本語の豊かさそのもののなのです。

(4)については、国語科という科目を離れて総合学習や地域学習の中で感じ取ってもらいたいことのひとつです。ことばも含めて、日本全体が均質化に向かっていることが地方の文化の喪失につながっていることも忘れてはならないと思います。

本書は、以上のような思いと願いを込めて、2004年度後期に金沢大学大学院教育学研究科（修士課程）の「国語学特論Ⅱ」の受講生の人たち（松田岳志・大熊美佳・篠田留知亜）とともに作成した『＜試作版＞みんなで学ぼう！金沢ことば』をもとに、補筆・改訂を加えたものです。そして、その＜試作版＞は、岐阜大学教育学部国語教育講座助教授の山田敏弘氏が2003年3月に学生さんたちと作った『みんなで使おっけ！岐阜のことばⅠ』（非売品）という優れた小・中学校向けの方言教材を参考にしたものです。

ここ数年、小・中学校の先生方から方言学習についてのご相談を受けることも多くなり、先生方の参考になるような方言教材の作成を考えていました。そして一昨年、金沢のことばを素材とした＜試作版＞を作成したところ、県内の学校関係者、日本語教師、マスコミ等の多くの方々から予想外の評価をいただきました。できれば金沢ことば以外の教材も作成してほしいとの声も聞かれました。

幸い、2005年度・2006年度の2年間、日本学術振興会の科学研究費、基盤研究(C)に加藤の申請した「現代方言の記述に基づく方言学習教材作成のための基礎的研究」が採用され、この2年間で北陸地方の方言教材作成の機会が与えられました。本書はその研究成果（方言学習教材シリーズ）として、昨年度作成した『みんなで学ぼう！大聖寺ことば』『みんなで学ぼう！鶴来ことば』に続いて作成したものです。方言学習に関心をお持ちの先生方、地域学習に関心をお持ちの方、そして地域在住の外国人への方言指導を考えていらっしゃる先生方等にご利用いただければ幸いです。特に学校の先生方には、本書を参考にご自身の手で独自の方言教材を作成していただけたら嬉しく思います。

＜本書の内容・構成＞

本書は全体が13課で構成されています。現在の金沢市域で使われている金沢ことば（金沢方言）の中から、基本的かつ特徴的な内容を盛り込むべく努力したつもりです。ただ、金沢ことばと言

っても、そこには世代差、地域差、個人差が当然あります。各課の会話文は、2004 年度後期「国語学特論Ⅱ」の受講生であり、金沢ネイティブである松田岳志君とそこそ家族の協力を得て、50 歳代前後の金沢ことばを想定して作成したものに改訂を加えました。伝統的な方言の学習、継承という観点からは 70 歳代前後の方言による会話文をとも考えましたが、それらには衰退しているものも多いので、子どもたちにとって比較的身近な親世代の方言でまず学んでもらい、その後自分たちの方言、さらに上の世代の方言へと興味・関心につないでもらう方がよいと考えました。

各課は 4 ページ構成とし、1 ページ目に会話文とその中に含まれる語句等の語釈、会話文の共通語釈、2 ページ目に会話文の含まれる重要表現の解説、3 ページ目に重要表現を使いこなすための練習問題、そして 4 ページ目に「金沢ことば豆知識」のコラムという内容になっています。

本書末尾には、参考として「石川の方言と金沢ことば一概説」、「同一例文の 3 世代（男女別）金沢ことば訳」、そして「参考文献等」を載せました。

本書に対して、多くの皆さん、特に小・中学校の先生方からご意見やアドバイスをいただき、さらに索引等を加えた完成版をめざしたいと思います。ぜひ本書奥付に記載の連絡先までご連絡下さい。

2007 年 3 月 早春の金沢市角間の里にて

金沢大学教育学部国語教育講座 教授

加 藤 和 夫

目 次

はじめに—本書を使って下さる先生方と児童・生徒の皆さんへ—	1
＜本書の内容・構成＞	3
目次	4
第1課 あたしバスケ部やよ。	8
会話・ことば 共通語では	8
表現 1. 「～や」—名詞述語の肯定—	9
2. 「～でない」—名詞述語の否定—	9
3. 「～やろ」—推量—	9
練習問題	10
金沢ことば豆知識① これって方言！？(1)	11
第2課 明日の集合、何時やったっけ	12
会話・ことば 共通語では	12
表現 4. 「～け」—疑問—	13
5. 「～てくれっけ」—依頼—	13
6. 「いいけ」—許可要求—	13
練習問題	14
金沢ことば豆知識② これって方言！？(2)	15
第3課 風邪ひいてしもたがや。	16
会話・ことば 共通語では	16
表現 7. 「～がや」—「～のだ」—	17
練習問題	18
金沢ことば豆知識③ 苦しさを表す方言	19
第4課 宿題せんと寝たがやって。	20
会話・ことば 共通語では	20
表現 8. 「～ん」—動詞の否定形—	21
9. 「～なんだ」—過去形の否定—	21
10. 「～んがんなる」—変化の否定—	21
11. 「な～ん＋否定」—全く～ない—	21
練習問題	22
金沢ことば豆知識④ だら	23

第5課	21世紀美術館行ってきたうえー。いいじー。	24
会話・ことば	共通語では	24
表現	12.「～じー」—予想・期待に反することに対する気持ち—	25
	13.「～うえ（ー）」—情報・認識の共有—	25
練習問題		26
金沢ことば豆知識⑤	変化する金沢ことば—世代差のある表現(1)—	27
第6課	おもしろやろ？ ほーやねー。	28
会話・ことば	共通語では	28
表現	14.「ほーや」—肯定的応答詞—	29
	15.「なーん」—否定的応答詞—	29
	16.「ほれ」—代名詞的指示詞—	29
練習問題		30
金沢ことば豆知識⑥	変化する金沢ことば—世代差のある表現(2)—	31
第7課	気一つけて行きまっしや。	32
会話・ことば	共通語では	32
表現	17.「～まっし」—軽い命令・勧誘—	33
	18.「～さ」—勧誘の表現—	33
練習問題		34
金沢ことば豆知識⑦	じゃんけん	35
第8課	どいてま。ちょっこ待ってま。	36
会話・ことば	共通語では	36
表現	19.「～ま」—強意の終助詞—	37
	20.「～んなん」—義務—	37
	21.「～たらいかん」—禁止—	37
練習問題		38
金沢ことば豆知識⑧	促音化	39
第9課	寒いさけ、うちんなか入っとろーさ。	40
会話・ことば	共通語では	40
表現	22.「～さけ」—原因・理由—	41
	23.「～がに」—逆接—	41
	24.「～や」—一般的な条件・順接の仮定条件—	41
練習問題		42

金沢ことば豆知識⑨ 気候と方言	43
第10課 はよらと、どこ行くがけ？	44
会話・ことば 共通語では	44
表現 25. 「～らと」―「形容詞＋に」―	45
26. 「～ない」―形容詞の否定形―	45
27. 「～て」―形容詞のテ形―	45
28. 「～なけな」―形容詞に続く否定条件「形容詞＋ないと」―	45
練習問題	46
金沢ことば豆知識⑩ 金沢方言のオノマトペ	47
第11課 食べれるわいや。	48
会話・ことば 共通語では	48
表現 29. 「食べれる」―一段活用・カ変動詞の可能動詞形―	49
練習問題	50
金沢ことば豆知識⑪ ゆれるイントネーション	51
第12課 まだ袋に入っとるさけ、だんないやろ。	52
会話・ことば 共通語では	52
表現 30. 「～とる」―動作の持続と結果の残存―	53
31. 「～とく」―準備・措置―	53
32. 「～ても」―残念・完了―	53
練習問題	54
金沢ことば豆知識⑫ 新しく生まれる方言（新方言とネオ方言）	55
第13課 みそ汁こぼいても一た。	56
会話・ことば	56
表現 33. 「出いた」―サ行五段動詞のイ音便化―	57
練習問題	58
金沢ことば豆知識⑬ がんこな	59
付録1：石川の方言と金沢ことば概説―	60
ちょっと難しいげんけど、読んでみてま！	
1. 全国の方言から見た石川の方言の位置	60
2. 加賀の方言	61
3. 能登の方言	61
4. 金沢ことば	63

付録２：同一例文の３世代（男女別）金沢ことば訳	64
◇金沢ことばについて学ぶための参考文献◇	69
◇方言について学ぶための参考文献◇	70

第1課 あたしバスケ部やよ。

会 話

たかし：つよし、中学 行ったら 何部 入っけ？
つよし：卓球部や。たかしも 卓球部やろ？
たかし：卓球部でねーよ、野球部や。ゆうこは 何部や？
つよし：バドミントン部やろ。前 ゆーとったさけ。
たかし：ほーなんや。知らなんだ。
ゆうこ：ちごーって、あたし バスケ部やよ。
つよし：前、バドミントンやって ゆーとったやろ？
ゆうこ：気ー 変わったがや。

こ と ば

- ◆ 入っけ？：入るの？
- ◆ ゆーとったさけ：言っていたから
- ◆ ほーなんや：そうなんだ。
- ◆ ちごー：ちがう。

共通語では

たかし：つよし、中学校に行ったら何部に入るの？
つよし：卓球部だよ。たかしも卓球部だろう？
たかし：卓球部ではないよ、野球部だ。ゆうこは何部だい？
つよし：バドミントン部だろう。前に言っていたから。
たかし：そうなんだ。知らなかった。
ゆうこ：違うって、わたしはバスケ部だよ。
つよし：前にバドミントンだって言っていただろう？
ゆうこ：気が変わったんだよ。

表 現

1. 「～や」—名詞述語の肯定—

- | |
|---------------------------------------|
| (1) あの子も卓球部 や 。(あの子も卓球部だ。) |
| (2) あの先生は金沢出身 や 。(あの先生は金沢出身だ。) |

共通語の「～だ」にあたる言い方は、金沢ことばでは「～や」となります。「～や」だけでも使いますが、「～やわ」「～やぞいね」「～やがいね」「～やわいね」などいろいろ組み合わせて使います。若い人（特に女性）は「～やよ」という言い方も使います。

2. 「～でない」—名詞述語の否定—

- | |
|--|
| (3) あの子、卓球部 でないよ 。(あの子、卓球部ではないよ。) |
| (4) あの先生、金沢出身 でねーわ 。(あの先生、金沢出身ではないよ。) |

共通語の「～ではない」にあたる金沢ことばは「～でない」です。「よ」「わ」とあわせて使うと、「～でないよ」「～でないわ」ですが、あいだをのばして「～でねーよ」「～でねーわ」という言い方もよくみられます。

若い人は「～じゃない」「～じゃねーよ」「～じゃねーわ」という言い方をよく使います。

3. 「～やろ」—推量—

- | |
|--|
| (5) あの子もたぶん卓球部 やろ 。(あの子もたぶん卓球部だろう。) |
| (6) あの先生、金沢出身 やろー 。(あの先生、金沢出身だろう。) |

はっきり分からないけれどもたぶんそうであるということを言うとき、金沢ことばでは「～やろ」を使います。後ろをのばして「やろー」とも言います。

また、文末を上昇調のイントネーションで疑問の意味でもよく使います。

- (7) あの先生、金沢出身**やろ？**

練習問題

練習1 下の文を例のように金沢のことばに変えてみましょう。

例：あの子、テニス部 → あの子はテニス部や／やわ／やよ。

(1)田中さん、高校生 →

(2)あたしの妹、2年生 →

(3)森本先生、金沢出身 →

★「～でないよ、～でないわ、～でねーよ、～でねーわ」を使っても、練習してみましょう。

練習2 ☐の中から選んで下線部をうめてみましょう。

やろ	や	でないよ
----	---	------

(1)生徒A：森本さんは先生なんけ？

生徒B：ほや、先生_____。(そうだ、先生だ。)

生徒A：泉さんも先生なんけ？

生徒B：なーん、泉さんは先生_____。(ううん、泉さんは先生ではないよ。)

(2)すぐ来る_____。(すぐ来るだろう)

(3)あの女優、金沢出身_____？(あの女優、金沢出身だろう？)

金沢ことば豆知識①

これって方言！？(1)

方言には、それを話している人たちに方言だとあまり意識されないで使われているものがあります。

たとえば、「あたる」「りくつな」「ひどい」「かたい」「うまそな」「じゃまない」「きのどくな」「くどい」などは、共通語でも使われますが、金沢では共通語とは異なる意味でも使われているものです。

例を挙げてみましょう。

「終業式の日も、給食があたるげんて。」（あたる：もらえる）

「(よくできた商品、仕組みなどに対して感心して) りくつなー。」（りくつな：よくできた、巧みな）

「(体がつらそうな相手を気遣って、言葉をかけるときなどに) ひどいやろー。」（ひどい：体がつらい）

「何でもよ一分かって、かたい子や。」（かたい：聞き分けのよい、利口な）

「(相手の赤ちゃんに対して) うまそなー。」（うまそな：元気そうな）

「なーん、じゃまない。」（じゃまない：大丈夫、問題ない）

「(旅行のお土産をもらって) あらー、きのどくな」（きのどくな：ありがとう）

「この肉じゃが、ちょっこしくどい。」（くどい：塩辛い）

これらは共通語と形が同じなので、共通語とは違った意味で使っていること、つまり方言だと気づかれにくいのです。北陸三県に共通に使われる「もらえる」の意味の「あたる」、感謝のことばの「きのどくな」、「塩辛い」の意味の「くどい」を除くと、ほかは石川県内に特有の意味をもつことばで、県外から金沢にやってきた人が聞くと、最初はびっくりするにちがいありません。

共通語と同じ形、あるいは似た形で意味が異なるものに、ほかにどんなものがあるか、探してみるのも面白いですね。

第2課 明日の集合、何時やったっけ？

会 話

たかし：明日の 集合、何時やったっけ？

つよし：7時半やって、先生な、ゆーとったがいね。

たかし：よー 聞こえんかったがや。今から お菓子 買いに行くげんけどー、もう
こーてもたけ？

つよし：なーん。ほな 一緒に いこーさ。

たかし：おばちゃん、ちょっこ、おまけ してくれっけ？

おばちゃん：ほな、100円ね。あんたら 明日 遠足なが？

つよし：ほーや。能登島水族館、行ってくるうえー。

おばちゃん：いいじー。ほんな、気一つけて行ってきました。

こ と ば

◆ 先生な：先生が（は）

◆ こーてもた：買ってしまった

◆ なーん：ううん（いいえ）

共通語では

たかし：明日の集合は何時だったかな？

つよし：7時半だって先生が言ってたじゃないの。

たかし：よく聞こえなかったんだよ。今からお菓子を買に行くんだけど、もう買ってしまったの？

つよし：ううん。それじゃあ、一緒に行こうよ。

（駄菓子屋で）

たかし：おばちゃん、少しおまけしてくれる？

おばちゃん：それじゃ、100円ね。君たち明日遠足なの？

つよし：そうだよ。能登島水族館行ってくるんだよ。

おばちゃん：いいねえ。それじゃあ、気をつけて行ってくるんだよ。

表 現

4. 「～け」—疑問—

- (8) あんたも卓球部なん**け**? (あなたも卓球部なの?)
(9) すぐ来るが**け**? (すぐ来るの?)

自分の分からないことや気になることを相手に聞くための文を疑問文といいます。金沢方言では疑問文のおしまいによく「け」がつきます。

金沢方言には他にもたくさんの疑問の言い方があります。

- (10) 今、何時**け／なん／なんけ／なが／ながけ**?
(11) 昼、何食べる**け／ん／が／がん／んけ／がけ／がんけ**?

また、最近見られる新しいものに「～らん」という言い方があります。

- (12) つよし、塾通つと**らん**?
(13) つよし、塾通つと**るがん**?

「～らん」は「(る) + がん」が変化したものだと言われています。

5. 「～てくれっけ」—依頼—

- (14) ちょっこし、待つと**てくれっけ**? (ちょっと待っていてくれる?)

相手に何かをお願いするとき、「～てくれっけ」と言います。また、若い人はあまり使いませんが、「～てたい」ということもあります。

- (15) ちょっこし、待つと**てたい**ま。

やや丁寧な言い方で共通語の「～てください」に近いものとして「～てくだんし」という言い方があります。

- (16) ちょっこし、待つと**てくだんし**。

この言い方も最近ではほとんど聞くことができません。人によっては「～てくたんし」と言ったり、「～てふたんし」と言ったりするようです。

6. 「いいけ」—許可要求—

- (17) テレビの音、小さくても**いいけ**? (テレビの音、小さくてもいい?)

自分が何かをしようとして、相手にそれをしてもらいたいとき、金沢方言では「いいけ」と言います。

練習問題

練習1 次の文を例のように金沢のことばに変えてみましょう。

例：明日は給食なしなの？ →明日、給食なしけ／なん／なんけ／？

(1)もう宿題済んだの？

→もう宿題済んだ？

(2)今、何してるの？

→今、何_____？

(3)妹は何歳なの？

→妹、何歳_____？

練習2 次の文を例のように金沢のことばに変えてみましょう。

例：ちょっと、ここにいてくれる？

→ (ちよっこし、ここにおってくれっけ? / おってたいま / おってくだんし)

(1)教科書見せてくれない？

$$\rightarrow ($$

(2) 駅まで送ってくれない？

$$\rightarrow ($$

(3)ちょっと、待っていてくれる？

$$\rightarrow ($$

金沢ことば豆知識②

これって方言！？(2)

学校でよく使うことば、特に先生たちが普通に使っていることばだと、方言だと気づきにくいものがあります。そんな例を金沢ことばの中からいくつか見てみましょう。

- ・「～だいめ」…歌の歌詞を数えるとき、「1だいめ、2だいめ」（1番、2番）のように使われます。全国でも石川・富山両県だけの言い方で、ほかの45都道府県では「1ばん、2ばん」と言います。
- ・「かたがる」…「傾く」の意味で、「メガネかたがとるよ」「壁の絵がかたがとる」のように使われます。
- ・「校下（こうか）」…共通語で言う「学区（小・中学校の通学区域）」のことです。北陸三県、中でも石川県でよく使われています。ただ、金沢では最近「校区（こうく）」に言い換える例も見られるようになりました。全国共通語の学区でなく、近畿地方を含む西日本共通語的な校区に言い換えているところが面白いですね。
- ・「めもらい」…「麦粒種（ものもらい）」のこと。
- ・「おいでる」…「いらっしゃる」の意味で、「先生がおいでる」のように使われます。金沢を中心に使われる、さらに丁寧な形の「おいでます」も方言だとあまり思われていないようです。

「おいでる」は共通語の「おいでになる」に形が似ているだけではなく、北陸地方で広く使われており、改まった場面でも使われるために方言だと気づきにくいようです。「めもらい」は共通語形「ものもらい」を普段聞く機会が少ないことと、福井県の嶺北地方から富山県までの広い範囲で使われる形であることで方言だと気づきにくいのでしょうか。「かたがる」も北陸三県で使われます。また、「校下」「～だいめ」などは、学校で先生も使っていることから、方言だと知る機会が少ないようです。こういうものを「学校方言」と言うことがあります。

ほかにはどんな「かくれた方言」があるのでしょうか。みんなで探してみましょう。

第3課 風邪ひいてしもたがや。

会 話

たかし：どうしたがや？ ひどそうな 顔して。

ふみこ：なーん、風邪 ひいてしもたがや。今朝から ものて、もので。

たかし：起きとって、だんないがかいや？ 今、はやっとるさけなー。

ふみこ：おいね。うちな、ねんねから ばばまで みんなや。

たかし：あらー、がんこなー。えらいこっちゃじー。

あまりもんやけどー、この ぼたもち 持って行くまっし。

ふみこ：あらー、きがねな。もろーてしもて いいがけ？

たかし：しんどい ときなー、おたがいさまや。

こ と ば

- ◆ ひどい：つらい。体調が悪い。
- ◆ ものい：つらい。体調が悪い。
- ◆ ねんね：赤ちゃん。または末っ子。
- ◆ がんこ：程度がはなはだしいこと。
- ◆ ぼたもち：おはぎのこと。
- ◆ きがねな：ありがとう。すみません。
- ◆ しんどい：つらい。

共通語では

たかし：どうしたの？ つらそうな顔をして。

ふみこ：いやあ、風邪をひいてしまったのよ。今朝からつらくて、つらくて。

たかし：起きていて大丈夫なの？ 今、はやっているらしいからねえ。

ふみこ：そうなの。私の家では、一番下の子からおばあちゃんまでみんなだ。

たかし：あら、ひどいね。大変なことじゃない。

余り物だけど、このおはぎ持って行きなさいよ。

ふみこ：あら、悪いね。もらってしまってもいいの？

たかし：つらいときは、お互いさまだ。

表 現

7. 「～がや」 — 「～のだ」 —

(18) あんたがおるさけ行く**がや**。(あなたがいるから行く**んだ**。)

(19) なに読んどる**がや**? (なにを読んでいる**んだ**?)

共通語の「～のだ」にあたる言い方は金沢方言では「～がや」です。

また、若い人たちの中でよく使われる言い方に「～げん」「～がん」「～が」「～ん」などがあります。

(20) あんたがおるし行く**げん**。(あなたがいるから行く**んだ**。)

(21) なに読んどる**がん／が／ん**? (何を読んでいる**んだ**?)

「～げん」は「～がや」によく似ていますが、同じように使えない場合があります。例えば、(21)のような疑問文では「げん」は使えません。また、独り言で「なるほど、こうすればいいんだ。」と言うとき、「いいがや。」は使いますが、「いいげん。」とは言いません。

さらに新しいものとして次のような言い方もあります。

(22) 明日、遊園地行**けん**。(明日、遊園地行く**んだ**。)

(23) 昨日、遊園地行**てん**。(昨日、遊園地行**ったんだ**。)

(24) 今、テレビ見と**れん**。(今、テレビを見ている**んだ**。)

(25) 今、なに見と**らん**? (今、なにを見ている**んだ**?)

(26) 来週、ゴミ当番**ねん**。(来週、ゴミ当番**なんだ**。)

これらはそれぞれ「～く+げん」「～た+げん」「～る+げん」「～る+がん」「～な+げん」という組み合わせで、「げん」「がん」の前にくるものと「げん」「がん」がくっついてできた新しい形だと考えられています。

練習問題

練習1 次の語を組み合わせ「がや」を使った金沢ことばの文をつくってみましょう。

例：あさって 温泉 行く。 → あさって温泉行くがや。

(1) 今日 図書館 行く。

→

(2) これから 夕飯 食べる。

→

(3) 夕飯 何 食べる。

→

練習2 の中から選んで下線部をうめてみましょう。

がや	げん	が	がん
----	----	---	----

たかし：冬休みどこ行く_____？（冬休みはどこに行くの？）

つよし：山代温泉に行く_____。（山代温泉に行くんだ。）

練習3 の中から選んで下線部をうめてみましょう。

けん	てん	れん	らん	ねん
----	----	----	----	----

たかし：何しと_____？（何しているんだ？）

つよし：家族で白山登山にい_____。（旅行で北海道いくんだ。）

今、準備しと_____。（今、準備しているんだ。）

去年もいっ_____けどね。（去年も行ったんだけどね。）

うちの恒例行事_____。（うちの恒例行事なんだ。）

金沢ことば豆知識③

苦しさを表す方言

共通語の「苦しい」「つらい」にあたるような、苦痛や疲労感を表すことばとして、金沢では次のようなものが使われています。

「なんやらものいさけ、先に休ましてもろーわ。」

風邪をひいて熱が出たときなど、病的な苦しさを金沢では「ものい」を用いて表現します。走って息が切れるときなどの疲労感ではなく、頭がぼーっとしたり、体がだるかったり、咳が出たりするときに使うのが「ものい」です。

「遅刻するかと思て4階まで駆け上がったらえろーなったわ。」

病気以外も含んで幅広い苦しみを表すものとしては、「えらい」「ひどい」「きつい」「しんどい」などの表現があります。これらは「えっれー」「ひっでー」「きっちいー」「しんでー」のように促音化、長音化して使われると、より苦しそうに聞こえます。このほか、能登地方で使われる「たいそい」「ちきない（てきない）」や、富山県で広く使われている「だやい」を金沢で聞くこともあります。

第4課 宿題せんと寝たがやって。

会 話

たかし：宿題してきてんろ、見せてま。

つよし：なんもや一。なんやら ものかったさけ、宿題せんと 寝たがやって。

たかし：ほんながか。たいそうやったの一。

ほっでも よわった一。お前に 見してもろ一と 思とったさけ一、なーん
せなんだげっちゃ。

つよし：だらんこと いっとななま。いつまでも ほんなことやったら、じきに わがで
なんも できんがんなっぞいや。しっかり せ一ま。

たかし：ほ一やな一……。

こ と ば

- ◆ ～さけ：～から
- ◆ たいそう：たいへん
- ◆ よわる：こまる
- ◆ だら：ばか

共通語では

たかし：宿題してきたんだろ、見せてよ。

つよし：ううん。なんだか体調が悪かったから、宿題しないで寝たんだって。

たかし：そうなんだ。たいへんだったね。

それにしてもこまった。お前に見せてもらおうと思っていたから、
何もやらなかったんだよ。

つよし：ばかなことを言っているんじゃないよ。いつまでもそんなことだったら、
そのうち自分で何もできないようになるよ。しっかりしろよ。

たかし：そうだね……。

表 現

8. 「～ん」—動詞の否定形—

(27)最近太り気味やさけ、もう**食べん**わ。

(最近太り気味だから、もう食べないよ。)

(28)宿題**しん**とこーっと。(宿題しないでおこうっと。)

金沢方言では動詞「食べる」「書く」などの否定形は「食べん」「書かん」、「見る」「寝る」などの否定形は「見ん」「寝ん」となります。「する」の否定形は「せん」または「しん」（こちらの方が新しい言い方）です。

9. 「～なんだ」—過去形の否定—

(29)客が一人も**こなんだ**。(客が一人も来なかった。)

(30)昨日、宿題**しなんだ**。(昨日、宿題しなかった。)

動詞「来る」「書く」などの過去形の否定は「こなんだ」「書かなんだ」となります。また、若い人たちの中には「こんだ」「書かんだ」や「こんかった」「書かんかった」という言い方も見られます。「する」の過去形の否定は「しなんだ」「せなんだ」ですが、同じように「しんだ」「せんだ」や「しんかった」「せんかった」という言い方も見られます。

(31)客が一人も**こんだ／こんかった**。

(32)昨日、宿題**しんだ／しんかった**。

10. 「～んがんなる」—変化の否定—

(33)テレビからもっと離れて見んと、目**一見えんがんなる**よ。

(テレビからもっと離れてみないと、目が見えないようになるよ。)

変化の否定「～ないようになる」を金沢では「～んがんなる」もしくは、「～んがんになる」「～んがになる」と言います。また、若い人たちの中では「～んくなる」と言い方がよく聞かれます。

(34)テレビからもっと離れて見んと、目**え一見えんくなる**よ。

11. 「な一ん＋否定」—全く～ない—

(35)うちの子ら、**な一ん勉強しん**ぞいね。

(うちの子たち、全く勉強しないんだよ。)

金沢方言の「な一ん＋否定」は、共通語「何も～ない」「全く～ない」という意味で使われます。

練習問題

練習1 次の下線部を例のように金沢のことばに変えてみましょう。

例：誰も来なかった。 ⇒ (こなんだ)

(1)寝坊して朝ごはんを食べなかった。

→ ()

(2)家の手伝いをしなかった。

→ ()

(3)日曜日は学校に行かない。

→ ()

練習2 次の文を金沢のことばに変えてみましょう。

(1)その音はだんだん聞こえないようになった。

→ ()

(2)そのうち自分で何もできないようになるよ。

→ ()

練習3 下線部に () 内の意味の金沢のことばを書きましょう。

(1)たくみ：お金足りっかなー。

父親：_____ (何も心配しなくてもいいよ)。

(2)はるき：予習してきたがか？

こうき：_____ (少しもしてこなかったよ)。

金沢ことば豆知識④

だ ら

「だらんことゆーとんなま！」口げんかなどで怒りが頂点に達したときに、金沢の人の口から、このようなことばが発せられることがあります。「だら」は「ばか」の意味で、全体では「ばかなことを言うんじゃないよ」ということになりますが、「いい加減にしろ！」「ふざけるな！」の気持ちをこめて、強い口調で言うときより効果的です。主に男性が使う表現ですが、女性が使うときより迫力があるかもしれません。

一方、同じ「だら」でも、仲のいい友だち同士や家族の間で言われる「だらやなあ」や、親が子ども叱るときなどに言う「だらぶち！」は、親しみを込めた優しいいましめの表現です。「だら」は北陸では石川・富山両県で広く使われていますが、日常よく使うためか、金沢の代表的方言の一つとしてよく紹介されます。

「だら」のようなことばを罵倒語と言いますが、金沢ではほかに「ばか」や「あほ」も使われます。厳密には言えませんが、金沢ではこの三つを微妙なニュアンスの違いで使っているようです。「ばか」や「あほ」では言い表せない強い怒りや親しみを、金沢の人は「だら」をうまく使って表現しています。

金沢の年配の人には、「だら」が金沢辺の独特の方言だと思っている人が多く、真宗王国と言われる信仰心の強い土地柄のせいもあって、「だら」や「だらぶち」が仏教の「陀羅尼教」「陀羅尼仏」に由来すると信じている人もいます。しかし、金沢の「だら」は、もとは京都あたりで生まれた「ばか」を意味する「たらず（足らず）」が、北陸に伝わるうちに「たらず」→「だらず」→「だら」と形を変えたものだと考えられます。なぜなら「だら」に似た言い方は、石川・富山だけでなく、新潟の一部（「たらず」）や西の鳥取・島根（「だらず」）、九州の一部などに分布し、このことばが京都を中心に周辺に広がったものであることを示しているからです。

第5課 21 世紀美術館行ってきたうえー。いいじー。

会話

ゆうこ：冬休み どっか 行ったけ？

たかし：なーん、ずーっと こたつで みかん 食ーとったわ。

ゆうこ：あたし、21 世紀美術館 行ってきたうえー。

たかし：いいじー。わし まだ 行ってねーがや。

ゆうこ：建物な すっごい きれーやったうえ。中に カフェまで あるげんよ。

たかし：ほーなんや。りくつなー。

ゆうこ：ロボットみたいながも おるうえ。

たかし：えらいこっちゃじー。ほかに 何が あるが？

ゆうこ：入って すぐんところに 中で 人が 歩いとる プール あるうえ。

たかし：ほーん、やっぱし 行ってみんとだちゃかんな。

ことば

◆ 21 世紀美術館：金沢市の中心部に位置する「金沢 21 世紀美術館」のこと。2004 年 10 月開館。

◆ りくつな：立派だ。便利だ。巧みだ。

共通語では

ゆうこ：冬休みどこか行ったの？

たかし：ううん、ずっとこたつでみかん食べていたよ。

ゆうこ：私は 21 世紀美術館行ってきたよ。

たかし：いいなあ。おれはまだ行ってないんだ。

ゆうこ：建物がすごくきれいだよ。中にカフェまであるんだよ。

たかし：そうなんだ。すごいなー。

ゆうこ：ロボットみたいなものもあるよ。

たかし：すごいなあ。ほかには何があるの？

ゆうこ：入ってすぐのところの中に人が歩いているプールがあるよ。

たかし：うーん、やっぱ行ってみないとだめだな。

表 現

12. 「～じー」—予想・期待に反することに対する気持ち—

(36) あれ、今日元気ない**じー**。(あれ、今日は元気ないね。)

(37) 高そうな服着とる**じー**。(高そうな服きてるね。)

(38) 昨日来んかった**じー**。(昨日来なかったね。)

「～じー」は自分にとって意外なことについて述べる時、話し手の気持ちがこめられた表現です。「～じー」は「心配」「不安」「羨み」「皮肉」「不満」など場面に応じてさまざまな気持ちをこめて使われます。

ただし、例えば「あ、(自分の) くつしたに穴あいとる**じー**。」のように、意外であったとしても自分のことについて「～じー」は使いません。

13. 「～うえ (ー)」—情報・認識の共有—

(39) 隣、留守や**うえ (ー)**。(隣、留守なんだよ。)

(40) パソコン買った**うえ (ー)**。(パソコン買ったんだよ。)

(41) 明日休みやろ？いい**うえ (ー)**。(明日休みでしょ？いいなー。)

「～うえ (ー)」は聞き手に自分の持っている情報・認識を伝えて、その情報・認識を聞き手にも持って欲しいという気持ちがこめられた表現です。

特に自分に関することについて「～うえー」を使う場合、「いいでしょ」「うらやましいでしょ」という自慢のニュアンスがあります。また、反対に「うらやましいな」という気持ちをこめた「いいうえー」という言い方もあります。

練習問題

練習1 次の下線部には「じー」と「うえー」のどちらが入るでしょうか。意味をよく考えて入れてみましょう。

- (1)髪、切ったー？かわいい_____。
- (2)土日、USJ行ってきた_____。
- (3)大丈夫？顔色悪い_____。

練習2 次の下線部には「じー」と「うえー」のどちらが入るでしょうか。意味をよく考えて入れてみましょう

- (1)みさき：ほれ、何やー？

さくら：電子辞書。昨日買った_____。

みさき：えー、いい_____！いい_____！かっこいい_____！

- (2)はるか：今日、お弁当の日やね。わたし、自分で作ってきた_____。

りん：ほーなん！？すごい_____。

金沢ことば豆知識⑤

変化する金沢ことば―世代差のある表現(1)―

「夏休みなんするがや？」(83 歳男性)

「夏休みなんするがん？」(46 歳女性)

「夏休みなんすらん？」(23 歳男性)

これらは、どれも意味は同じで「夏休みは何をするのだ？」ということを聞いています。しかし、おしまいの部分が「するがや?」「するがん?」「すらん?」と世代によって違います。そして、これらの質問に対する答えは次のようになります。

「海水浴するがや。」(83 歳男性)

「海水浴するげん。」(46 歳女性)

「海水浴すれん。」(23 歳男性)

これらも「海水浴をするのだ。」という同じ意味なのですが、やはりおしまいの部分が違います。これによって、共通語の「のだ」にあたる金沢ことばの「がや」が、世代とともに変化していく様子がわかります。

もともと「がや」は肯定にも疑問にも同じ形で使われましたが、「んや」という言い方に影響を受けて「がんや」に変化したり、「や」が落ちて「が」になったり、発音が変化して「げー」になったりしながら、やがて「がん」が生まれ、「げん」も生まれました。「がん」は疑問専用の形で、「げん」は疑問では使えません。

「がん」はさらに、その直前の音とくっついて「出らん(出る+がん)」「行かん(行く+がん)」のような新しい形を生み出し、「げん」からも「出れん(出る+げん)」「行けん(行く+げん)」「来てん(来た+げん)」のような形も生まれています。

このように、地方のことばが共通語の影響を受けて消えていく一方で、その地方で独自の変化をとげていくことばもあります。これから金沢ことばはどんなふうに変化していくのでしょうか。

第6課 おもしろやろ？ ほーやねー。

会 話

ひろこ：どうやったらー 兼六園まで 行けるがやろ。

つよし：あっこの バス停から 「兼六園下」 ってゆーがに 乗りゃいいがや。

ひろこ：よー 知っとるじー。このへん よー 来るがけ？

つよし：なーん。去年、百万石まつりで 来てんて。

ひろこ：いいじー。うちも 見に行ってみたいわ。

つよし：ほんな 一緒に 行こーさ。今年の 利家役は 赤井英和さんやよ。確か ファンやっ
たやろ？

ひろこ：おいね、家族 そろって 大ファンやわ。ほんな 妹と お母さん 誘ってもいいけ？
たくさん おったほうが おもしろやろ？

つよし：ほーやねー。あ、ほの バス 乗らんなんよ。

こ と ば

- ◆ 兼六園：金沢市にある池泉回遊式庭園。日本三名園の一つ。
- ◆ 百万石まつり：金沢市で毎年6月上旬に行われる祭。
- ◆ 利家役：祭のメインイベントの百万石行列は前田利家公の金沢入城を再現し
た武者行列がラストを飾る。利家役には毎年芸能人が招かれる。

共通語では

ひろこ：どうしたら兼六園に行けるんだろう。

つよし：あそこのバス停から「兼六園下」というのに乗ればいいんだよ。

ひろこ：よく知っているねー。このあたりによく来るの？

つよし：ううん。去年、百万石まつりで来たんだよ。

ひろこ：いいねえ。私も見に行ってみたいな。

つよし：それなら一緒に行こうよ。今年の利家役は赤井英和さんだよ。確かファンだっただろう？

ひろこ：うん、家族そろって大ファンだよ。それなら妹とお母さんを誘ってもいい？

たくさんいたほうが楽しいでしょ？

つよし：そうだね。あ、そのバスに乗らなければいけないよ。

表 現

14. 「ほーや」—肯定的応答詞—

- (42) A:寒いこっちゃねー。 B:ほーやね。
(寒いことだねー。) (そうだね。)
- (43) A:今日、忙しかったけ？ B:おいね、えろーなったわ。
(今日、忙しかった？) (そうなんだよ、つかれてだるくなっちゃったよ。)

相手の話に共感して相づちを打つとき、金沢では「ほーや」と言います。短く「ほや」と言ったり、くり返して「ほやほや」と言ったりもします。

また、「おいね」という表現もよく使います。男性は「おいや」をよく使います。

- (44) A:昨日、あんたんとこ泥棒入ったがやて？ B:おいね、ほやとこと。
ベテランになると、このように組み合わせて使うこともできます。

15. 「なーん」—否定的応答詞—

- (45) A:ほんな薄着で寒ないかいね？ B:なーん、暑がりねんて。
(そんなに薄着で寒くないの？) (うん平気、暑がりなんだよ。)
- (46) A:明日でテスト終わりけ？ B:なーも、明後日までや。
(明日でテスト終わり？) (いいや、明後日までだよ。)

「ほーや」とは反対に相手の話に対して「いいえ」「違うよ」と言うとき、金沢では「なーん」を使います。他にも「なーも」と言ったり、短く「なも」と言ったりします。

16. 「ほれ」—代名詞的指示詞—

- (47) **ほ**の子、どこの子や？ (その子、どこの子だ？)
- (48) **あこ**のマンションに住んどるげんて。
(あそこのマンションに住んでいるんだって。)

金沢方言では人・もの・場所を指すとき、次のようなことばを使います。

	コ系	サ系	ア系	ド系
もの	これ	それ／ ほれ	あれ	どれ
もの・人	この	その／ ほの	あの	どの
場所	ここ	そこ／ ほこ	あこ	どこ

金沢では「それ」や「その」の代わりに「ほれ」や「ほの」を使います。また、共通語の「あそこ」にあたる場所を指すとき、「あこ」を使います。

練習問題

練習1 下線部を例のように金沢のことばに変えてみましょう。

例：そのバス →(ほの)バス

(1) あそこの店 →()の店

(2) そこの傘 →()の傘

(3) その子 →()子

(4) そうだ そうだ →()

練習2 ☐の中から選んで下線部をうめてみましょう。

おいね	なーん	ほや	なーも
-----	-----	----	-----

(1) りょうた：ほの荷物、おまえのけ？

かいと：_____、おれのや。あこの本はおまえのけ？

りょうた：_____、おれのでない。

(2) はるな：昨日の宿題やった？

ほのか：_____、やらなんだわ。はるなは？

はるな：_____、やっとらん。

(3) 父親：今日の遠足、よ一歩いたけ？

かいと：_____、えろ一なったわ。

金沢ことば豆知識⑥

変化する金沢ことば一世代差のある表現(2)ー

「悲しいさかい泣くがや。」 (78 歳女性)

「悲しいさけ泣くがや。」 (83 歳男性)

「悲しいし泣くげん。」 (23 歳男性)

共通語の「のだ」にあたる金沢方言「がや」「げん」の世代差については前掲のコラム「変化する金沢ことば一世代差のある表現ー(1)」でも書きましたが、ここでは世代差のある表現をもう一つとりあげたいと思います。上の金沢ことばの例はともに「悲しいから泣くのだ」の意味ですが、「から」にあたる部分がそれぞれ違っています。金沢で使われている理由・原因の接続助詞「から」にあたる方言は「さかい(に)」「さけ(に)」「し」です。「さかい」はもともと近世の上方語ですが、現在でも関西を中心に広い範囲で使われています。「さけ」は「さかい」から変化した形です。関西から北陸に伝わった接続助詞の「さかい」は、かつての北前船ルートに沿うように、福井から日本海側を北上して石川、富山、新潟、山形、秋田、そして青森や岩手の一部にまで達して、その形も、地域により「さけ」「すけ」「しけ」のように変化しています。

「雨が降りそうやさかい行かんわ。」 (51 歳男性)

「雨降りそうやし行かんわ。」 (46 歳女性)

金沢では高年層は「さかい」または「さけ」しか使いませんが、中年層では「さかい」「さけ」に「し」が混ざります。さらに若い 20 代・10 代になると、「さかい」「さけ」をほとんど使わず、「し」または共通語と同じ「から」をよく使います。

ぜひ、みなさんのまわりにいる様々な世代の人の話し方を聞いて確かめてみてください。

第7課 気一つけて行きまっしや。

会 話

つよし：あけましておめでとう。初詣に 白山さん 行こーさ。

たかし：ほなー、ちょっこ 待っとってま。

祖 母：雪 降ってきたさけ、気一つけて 行きまっしや。

たかし：せっかくやさけー、おみくじ 引かんけ？

つよし：ほーやなー。ほんな、先に 引きまっし

。

たかし：なんや 末吉かいや。やっきねーぞいや。

つよし：あ、大吉や。おみくじも 引いたし、そろそろ 帰ろーさ。

たかし：ただいま……。なんか すーすーするな。

祖 母：ひどそうやねー。あんた 風邪 ひいたがでねーけ？

たかし：新年早々、ほんと やっきねーぞいや。

こ と ば

◆ 白山さん：「しらやまさん」と読む。白山市鶴来町にある白山比咩神社。

◆ やっきねー：やる気がない。運が悪いことなどをなげく表現。

◆ すーすーする：寒気がする。

◆ ひどい：体の調子が悪い。

共通語では

つよし：あけましておめでとう。初詣に白山比咩神社に行こうよ。

たかし：それじゃあ、ちょっと待っていてよ。

祖 母：雪が降ってきたから、気をつけて行きなさいね。

たかし：せっかくだから、おみくじを引かないかい？

つよし：そうだね。それじゃあ、先に引きなさいよ。

たかし：なんだ末吉かい。ついてないなあ。

つよし：あ、大吉だ。おみくじも引いたし、そろそろ帰ろうよ。

たかし：ただいま……。なんだか寒気がするなあ。

祖 母：つらそうだね。あなた風邪をひいたんじゃないか？

たかし：新年早々、本当についてないなあ。

表 現

17. 「～まっし」—軽い命令・勧誘—

(49) あんたも**がんばりまっし**。(あなたもがんばりなさいよ。)

(50) お茶入れるさけ、**よってきまっし**。

(お茶入れるから、よっていきなさいよ。)

「～まっし」は「～まさる」「～なさる」の意味)ということばの命令の形で、もともとは「～なさい」と相手に行動をうながす軽い命令の表現でしたが、最近では「～しよう」という勧誘の意味でも使われるようになっていきます。「～まっし」は動詞の種類によって、「書く」「行く」のような五段動詞には終止形に続いて「書くまっし」「行くまっし」、「起きる」「寝る」「する」のような一段動詞、サ変動詞には連用形に続いて「起きまっし」「寝まっし」「しまっし」のようになりましたが、五段動詞の場合も新しく「書きまっし」「行きまっし」のような連用形に続く言い方が多くなっています。

(51) このノートに**書くまっし／書きまっし**。

(52) ごはんの前に**宿題しまっし**。

また「～こっちゃ」という言い方もあります。

(53) もう遅いし、うちに泊まって**いっこっちゃ**。

(54) 明日早いさけ、もう**寝っこっちゃ**。

18. 「～さ」—勧誘の表現—

(55) 一緒に映画見に**行こうさ**。(一緒に映画を見に行こうよ。)

(56) 明日、公園で**遊ぼうさ**。(明日、公園で遊ぼうよ。)

友だちなどに「～しようよ」と言うとき、金沢では「～さ」を使います。「食べる」「する」の「～さ」の形は「食べようさ」「しようさ」です。「食べよっさ」「しよっさ」と言ったり、「食べよさ」「しよさ」と言うこともあります。

また、「～しない？」と疑問の形で誘うとき、「～け」を使います。

(57) 一緒に映画**行かんけ**？

(58) 明日、公園で**遊ばんけ**？

練習問題

練習1 下線部を金沢のことばに変えてみましょう。

(1) 今度の日曜日、一緒に映画を観に行こうよ。

→()

(2) 明日、みんなで遊ばない？

→()

(3) 水ギョーザ作って食べようよ。

→()

練習2 下線部を金沢のことばに変えてみましょう。

(1) もう遅いし、寝なさいよ。

→()

(2) 気をつけて行きなさいね。

→()

(3) 何でも食べなさいね。

→()

金沢ことば豆知識⑦

じゃんけん

「じゃんけん」は、「じゃんけんぽん」のかけ声とともにみんなが一斉に手を出しますが、このかけ声には地域によって、次のように色々な種類があります。

「いんじゃんほい」「ちっけった」「じっけった」「じゃいしんほい」「どっこいし」「いんちゃんし」「わんちいちい」「じゃらけつほい」「じゃんけんし」「あいけんじゃす」「けんのでもってほい」「あいけんばい」

ほかに、「じゃんけんちかほかヨーロッパはさーむいよ」「じゃんけんでほーいのさっぼろビールのへのかっぱ、えびせん」「じゃんけんじゃがいもさつまいも」「最初はグー、またまたグー、いかりや長介、頭はパー、正義は勝つ、じゃんけんぽん」のような長く楽しいかけ声もあります。

また、ドッジボールやサッカーなどで、グループを二つに分けるときにするじゃんけんのかけ声にも色んなものがあります。「グー」と「パー」を使うものに、「ぐっぱで組つーくろ」「ぐーぱーじゃんけん、じゃんけんほい」、「グー」と「チョキ」を使うものに「ぐーきーぐーきおともんやす」（「おともん」はもとは「ぐー」や「きー」で同じになった者、つまり「^鼻一た箸」から）などがあります。さらにトランプの「ばばぬき」などで、ゲームを始める人を決めるときにするじゃんけんには「なんでもひとつは右まわり」というかけ声があります。

じゃんけんから発展した遊びとして次のようなものもあります。

(1) じゃんけんをする。(2) 勝った者(A)が、かけ声と共に好きな手(グー、チョキ、パー)を出す。(3) 負けたもの(B)は、Aのかけ声に合わせて手を出す。

- ・ Aの手とBの手が同じ(あいこ)になった場合 ⇒【Aの勝ち】
- ・ Aの手とBの手が違う場合 ⇒【(2)に戻って繰り返す】
- ・ Aがかけ声を間違えた場合 ⇒【Bの勝ち】

この遊びでAは「グー」「チョキ」「パー」に合わせてそれぞれかけ声を使いますが、そのかけ声にも種類があります。1つ目は「ぐろ(グー)」「みっき(チョキ)」「べて(パー)」です。例えば、じゃんけんで「パー」を出して勝って、Aが「グー」「パー」「チョキ」という順で手を出した場合、「じゃんけんぽん、べってぐーろ、ぐろべって、べてみっき」というかけ声になります。2つ目は「ぐりん(グー)」「ちょりん(チョキ)」「ぱりん(パー)」です。これは「グリンピース」という名前の遊びで、ルールは同じです。さきほどと同じ条件の場合、「グリンピース(最初のじゃんけんのかけ声)、ぱりんぱりんぐりん、ぐりんぐりんぱりん、ぱりんぱりんちょりん」というかけ声になります。

このように同じ「グー」「チョキ」「パー」でもいろいろな呼び名があり、「じゃんけん」のかけ声もさまざまです。今回とりあげたのはそのごく一部です。皆さんの「じゃんけん」と同じものはありましたか？また、世界にはもっとさまざまな「じゃんけん」が存在します。インターネットなどを使って外国の「じゃんけん」も調べてみると面白いですね。

第8課 どいてま。ちょっこ待ってま。

会 話

母 親：ほこ 掃かんなんさけ、どいてま。

たかし：もー ゲーム 終わるさけー、ちょっこ 待ってま。

祖 父：えーま。大掃除 終わらんがいや。はよ どけま。

たかし：やっきねーなー。ほっでもー、終わったら 続きやらしてや。

母 親：ほんな、この むたむたなん、ちゃんと 片づけんなんよ。

祖 父：見とらんと ^{おも} 思て、また ゲーム したら いかんがやぞ。

たかし：この 窓も ふかんなんけ？

祖 父：おいや、外側も ふかんなんぞいや。

母 親：もう、蕎麦 ^{そば} できとるがいいね。のびてしもーさけ、はよ 食べまっしま。

こ と ば

- ◆ ちょっこ：ちょっと。すこし。
- ◆ えーま：いらだちの表現。ええい。
- ◆ むたむた：部屋などがちらかっている様子。

共通語では

母 親：掃除しなければいけないから、どいてよ。

たかし：もうゲームも終わるから、ちょっと待ってよ。

祖 父：ええい。大掃除が終わらないじゃないか。早くどけよ。

たかし：ついてないなあ。それでも、終わったら続きやらせてよ。

母 親：それじゃあ、このちらかっているのを、ちゃんと片づけなければいけないよ。

祖 父：見ていないと思って、またゲームをしてはいけないんだぞ。

たかし：この窓もふかなければいけないの？

祖 父：そうだ、外側もふかなければいけないぞ。

母 親：もう蕎麦ができているよ。のびてしまうから、早く食べなさい。

表現

19. 「～ま」—強意の終助詞—

(59)はよ、食べまっ**ま**。(早く、食べなさいよ。)

(60)もっと力入れて押せ**ま**。(もっと力入れて押しなさいよ。)

文のおしまいに付く「ま」は意味を強める働きをします。例えば「食べまっし」は、やさしく相手に食べることを勧める言い方ですが、「食べまっしま」と言うと、命令するような言い方になります。同じような意味で「食べてま」という言い方もあります。

また、「走る」「押す」などの動詞の命令形に直接「ま」をつけて「走れま」「押せま」と言うと、強めの命令になります。

「する」の「～ま」の形は「せーま（しーま）」「しろま」です。

(61)お前いいかげんにせー**ま**。

20. 「～んなん」—義務—

(62)宿題やら**んなん**よ。(宿題やらなければいけないよ。)

(63)6時までに帰ら**んなん**げんて。

(6時までにかえらなければいけないんだよ。)

「～なければならぬ」と必要や義務があることを言うとき、金沢方言では「～んなん」と言います。また、若い人は使いませんが「～なならん」という言い方もあります。

(64)宿題やらななら**ん**。

「する」の「～んなん」の形は「せんなん」「しんなん」です。

(65)明日遠足やし、早起きせ**んなん**。

21. 「～たらいかん」—禁止—

(66)こんなとっから入っ**たらいかん**よ。

(こんなところから入ってはいけないよ。)

「～てはいけない」と禁止するとき、「～たらいかん」と言います。

また、若い人はあまり使いませんが「だめだよ」という意味で「だちゃかん」という言い方があります。

(67)だらだらしとったら**だちゃかん**げんぞ。

練習問題

練習1 次の文を例のように「～ま」を使って強く命令する言い方にしてみましょう。

例：はよ起きる。 → （はよ起きま。）

(1)本気で走る。 → （ ）

(2)力を入れる。 → （ ）

(3)急いで準備する。 → （ ）

練習2 次の文を例のように「～んなん」の形にかえてみましょう。

例：はよ起きる。 → （はよ起きんなん。）

(1)全部食べる。 → （ ）

(2)きれいに書く。 → （ ）

(3)親孝行する。 → （ ）

練習3 次の文を例のように「～たらいかん」の形にかえてみましょう。

例：はよ起きる。 → （はよ起きたらいかん。）

(1)夜ふかしする。 → （ ）

(2)約束をやぶる。 → （ ）

(3)宿題を忘れる。 → （ ）

金沢ことば豆知識⑧

促音化

北陸の中でも石川の方言に共通した特徴として「促音化」が盛んに起きることが挙げられます。「促音」とは「っ」で表記される「つまる音」のことです。中でも、金沢ことばには「促音化」非常によく現れます。

「ソースとってくれっけ？（てくれるけ）」

「明日も来れっけ？（来れるけ）」

「乗せてってやっか？（やるか）」

「学校行ってくっぞいや。（てくるぞいや）」

このように、最後が「る」で終わる動詞の「る」が「っ」になる例が特に多いようです。他にも「行こっさ。（行こうさ）」や「行っこっちゃ。（行くこっちゃ）」など動詞が文末詞「け」「ぞいや」「さ」「こっちゃ」などと合わせて使われるときに「促音化」がよく現れます。

また、若い人たちに使われる金沢ことばの中にも「はっげー（はがいしい）」「きっちー（きつい）」「むっじー（むずかしい）」「やっきねー（やるきがない）」のような促音化がよく聞かれます。

ほかに「とっしより（年寄り）」「てったい（手伝い）」など名詞にも「促音化」が見られます。

ここに挙げなかったもの以外にも、促音化の例はたくさん見つかると思いますので、ぜひ周りから聞こえてくることばをしっかりと観察してみてください。

第9課 寒いさけ、うちんなか入っどろーさ。

会 話

たかし：ほなー 帰るわ。長いこと あんやと。

ふみこ：なんもや、気一つけて 帰んまっし。

たかし：あら、さっきまで 晴れとったがに 雨 降っどるぞいや。よわったー。

ふみこ：ほんな これ 持っていっこっちゃ。

たかし：あつら 気のどくな。

ふみこ：ほっでも、あんた。通り雨やさけ、もう ちょっこりすりゃ、やむわいね。ちょっこ
待つまっしま。

たかし：ほなー、ちょっこり 待たせてもろーわ。

ふみこ：おいね、寒いさけ うちんなか 入っどろーさ。こっとーと こたつに
ねまっどるまっしね。

こ と ば

- ◆ あんやと：ありがとう。
- ◆ 気のどくな：申し訳ない。ありがとう。
- ◆ ちょっこり：すこし。
- ◆ こっとーと：ゆっくりと。のんびりと。くつろいだ様子。
- ◆ ねまる：すわる。

共通語では

たかし：それじゃあ帰るね。長いことありがとう。

ふみこ：いいえ、気をつけて帰りなさいね。

たかし：あら、さっきまで晴れていたのに、雨が降ってるよ。困った。

ふみこ：それなら、これを持っていきなさいよ。

たかし：あら、ありがとう。

ふみこ：それでも、あなた。通り雨だから、もう少しすればやむよ。少し待ちなさいよ。

たかし：それなら、少し待たせてもらおうよ。

ふみこ：そうだよ、寒いから家の中に入っていようよ。ゆっくりこたつに入っていなさいよ。

表 現

22. 「～さけ」—原因・理由—

(68) 約束あつ**さけ**行けんわ。(約束があるから行けないよ。)

(69) 寒かった**し**、はよ寝たわ。(寒かったから、早く寝たよ。)

金沢方言の原因・理由を表す接続助詞は「～さけ」「～さかい」または「～し」です。若い世代では「～し」という言い方をよく使います。また、最近は共通語と同じ「～から」もよく聞かれるようになり、高校生以下の若い世代では「～さけ」「～さかい」はほとんど使われなようです。

70・80代	「～さけ／さかい」＞「～し」
40・50代	「～さけ／さかい」≥「～し」
20代	「～し」＞「～さけ／さかい」
10代	「～し」＞「～から」

23. 「～がに」—逆接—

(70) 雨降つとる**がに**、傘もつとらん。(雨が降っているのに、傘を持っていない。)

(71) なーん寒ない**がに**、えらい厚着しとるじー。(全然寒くないのに、ずいぶん厚着をしているね。)

金沢では共通語「～のに」にあたる逆接を表す接続助詞として「～がに」を使います。「～さけ」と同じように「～がに」も世代によって言い方が少しずつ違います。若い世代では「～がんに」「～んに」という言い方をします。

70・80代	「～がに」
40・50代	「～がに」＞「～がんに」＞「～んに」
20代	「～んに」＞「～がんに」＞「～がに」
10代	「～んに」＞「～がんに」

24. 「～や」—一般的な条件・順接の仮定条件—

(72) 1に1たし**や**、2やろ。(1に1をたせば、2だろう。)

(73) もっと足が長けり**や**いいがに。(もっと足が長ければいいのに。)

金沢では共通語「～ば」のかわりに「～や」という言い方をします。

練習問題

練習1 の中から選んで下線部をうめてみましょう。

さけ	さかい	さかいに	し
----	-----	------	---

(1) 明日約束ある_____行けんわ。

(2) 寒かった_____はよ寝たわ。

練習2 の中から選んで下線部をうめてみましょう。

がに	がんに	んに
----	-----	----

(1) 腹へつとる_____食べれん。

(2) 会いたい_____会えん。

練習3 次の文を例のように金沢のことばに変えてみましょう。

例：羽があれば飛べるのに。⇒（羽がありゃ飛べるがに。）

(1) 呼べばすぐ来るよ。

→ ()

(2) 安ければ買って置いて。

→ ()

金沢ことば豆知識⑨

気候と方言

方言は地方の文化であり、地域性を反映したものとよく言われることがありますが、金沢のことばについて詳しく見ても、このことばは金沢だから使われるようになったとか、金沢だから生まれたとはっきり言えそうなものは実は多くありません。なぜなら、金沢で使われることばの多くは、かつての都（中央語地域）があった京都方面から伝わったものがもとになっているからです。

そんな中で、たとえば気候と関係のある方言の中でも、冬の雪にまつわる金沢ことばには、この地域で独自に生まれたものがありそうです。

みなさんは知らない（使わない）かもしれませんが、金沢のことばの中からそんな例をいくつか拾ってみましょう。

キンカンナマナマ……雪が踏み固められて表面がツルツルになった状態
ゴボル……雪道を歩いていて雪に足がはまる
ゴッポ……下駄で雪道を歩いたときに、下駄の歯の間につまる雪の固まり
ユキスカシ……雪除け作業
ユキヤケ……しもやけ（凍傷）
ユキガミナリ……雪が降る前兆としての雷
コシキダ……木製の雪掻き具
ザラメユキ……粗い氷のような雪

最近は雪が少なくなって、こうした雪の生活にまつわる方言もだんだん忘れ去られようとしているのは仕方がないことですが、地域性を反映した方言の例としては面白いものです。みなさんのまわりにいる、雪が多かった時期を知っている人に、雪にまつわる金沢ことばにどんなものがあつたか聞いてみましょう。

ところで、東北が寒くて口を大きく開けて発音しないからズーザー弁のような発音になったという説を信じている人がいますが、これは真っ赤な嘘です。なぜなら、ズーザー弁的発音は、寒さ厳しい東北だけでなく、北陸の富山県・石川県の一部や山陰の出雲地方付近にもあるからです。

第10課 はよらと、どこ行くがけ？

会 話

正信：あら 奥さん、はよらと どこ 行くがけ？

ひろこ：晩の 準備に一 近江町まで 行くがや。

正信：ほんなら、わしも つんだって 行くわ。

正信：奥さん、カニ 買一てかんけ？ 安いぞいね。

ひろこ：なんぼなんかて 小さいかいね？もっと 大きなけな、
あいそむないやろ。

正信：ほーやな。とーちゃん、もっと 大きて たこない カニ ないがかいね。

魚屋：ほんなら、これ どうけ？こん中で 一番 大きいぞいね。

ひろこ：ほんな一、この カニ もろーさけ、なんか おまけ しまっしま。

こ と ば

- ◆ 近江町：近江町市場。金沢の台所として親しまれる。鮮魚、青果、精肉などの約 180 の店が軒を連ねている。
- ◆ なんぼなんかて：いくらなんでも。
- ◆ あいそむない：物足りない。寂しい。

共通語では

正 信：あら奥さん、早くにどこに行くの？

ひろこ：正月の準備に近江町まで行くんだ。

正 信：それなら、私もついて行くよ。

正 信：奥さん、カニを買っていかないかい？安いよ。

ひろこ：いくらなんでも小さくないかい？もっと大きくないと物足りないだろう。

正 信：そうだね。（魚屋の）父さん、もっと大きくて高くないカニはないのかい？

魚 屋：それなら、これはどうだい？この中で一番大きいよ。

ひろこ：それじゃあ、このカニをもらうから、何かおまけしなさいよ。

表 現

25. 「～らと」 — 「形容詞＋に」 —

(74) こんな**はよらと**どこ行くがけ？（こんなに早くにどこいくの？）

(75) 昨日な、**おそらと**帰ってきたじー。（昨日は遅くに帰ってきたね。）

共通語「早くに」「遅くに」にあたるものとして、金沢方言では「はよらと」「おそらと」という言い方があります。

26. 「～ない」 — 形容詞の否定形 —

(76) ほんなに着こんで**あつない**け？（そんなに着こんで暑くない？）

(77) 安売りやってゆうけど、なーん**やすない**わ。（安売りだって言うけど、全然安くないよ。）

共通語では形容詞の否定形は「あつくない」「やすくない」ですが、金沢では多くの場合「く」がぬけて「あつない」「やすない」と言います。

27. 「～て」 — 形容詞のテ形 —

(78) **しろて**大きい花が咲いとる。（白くて大きな花が咲いている。）

(79) テストの点数**よーて**よかったじー。（テストの点数良くて良かったね。）

共通語では形容詞の「て」がつく形は「しろくて」「よくて」ですが、金沢は「く」がぬけて「しろて」となったり、間をのばして「よーて」となったりします。

28. 「～なけな」 — 形容詞に続く否定条件「形容詞＋ないと」 —

(80) もっと**安なけな**売れんぞいね。（もっと安くないと売れないよ。）

(81) **あったかなけな**桜も咲かんわ。（暖かくないと桜も咲かないよ。）

金沢方言では「安くないと」「あたたかくないと」のように形容詞に条件を表す「～ないと」がつくとき、「安なけな」「あったかなけな」のように「～なけな」と言います。

練習問題

練習1 次の下線部を例のように金沢のことばに変えてみましょう。

例：私ももう若くないさけな。 ⇒ (若い)

(1) この料理うまくないな。

→ ()

(2) 春な、暖かくていいね。

→ ()

(3) もっと長くないと届かんぞいね。

→ ()

練習2 次の文を金沢の言い方に変えてみましょう。

(1) 英語は難しくないよ。

→ ()

(2) こんなに夜遅くにどこ行くの？

→ ()

(3) あそこのお化け屋敷は全然怖くないよ。

→ ()

金沢ことば豆知識⑩

金沢方言のオノマトペ

「あらーちゃわちゃわと。ちんとしとろ。ちみちみやぞ。」

部屋の中を所狭しと走り回る子どもたちに、大人たちはよくこのセリフを言ったものです。「ちゃわちゃわ」はせわしない動きや落ち着きがない様子を表すオノマトペ（擬音語・擬態語）です。

「ちんと」は「ちゃわちゃわ」とは反対のじっとしている状態、「ちみちみ」は指先でひふ皮膚をつまんでねじることを指します。「ちみちみ」は痛いので、こう言われた子どもたちはすぐに「ちんと」するわけです。また、おしりを叩くことを「ぺんぺん」と言います。

金沢にはほかにも共通語にはないようなオノマトペが存在します。その一部を紹介したいと思います。

けんけん、ぴんぴん、つんつん……鉛筆の先が尖っている状態。

ちゃべちゃべ ……おしゃべりな様。出しゃばりな様。

じゃみじゃみ ……テレビ画面の砂嵐状態。

ちんちん ……お湯などが触れないくらい熱い様。

きんきん ……飲み物がよく冷えている様。

すーすー（する） ……寒気がする。

きんかんなまなま ……積もった雪が凍ってつるつるになった状態。

つるつるいっぱい ……液体が溢れんばかりに注がれている状態。

きときと ……魚介類などの新鮮な様。

むたむた ……部屋などが散らかっている様。

ごぼる・ずぼる ……積もった雪に足をとられること。はまる。

がっぱに（なる） ……必死に（なること）。

こぼこぼ ……イモやカボチャの実がホクホクしておいしそうな様。

いんぎらーと、おんぼらーと ……ゆったりとした様。

めっこめざらし ……何から何まで全て。

第11課 食べれるわいや。

会 話

つよし：好きなもん 頼んまっし。今日な 世話んなったさかい おごるわ。

たかし：ほんな一、チャーシュー麺 大盛りに するわ。いいけ？

つよし：おう。ほやけど お前 食べれらんかいや。

この店な スープが くどいっちゅう 噂やぞいや。

たかし：だんない だんない。食べれるわいや。

女性店員：はい、どうぞ。

つよし：がんこな一。でっけー チャーシューやなー。

たかし：うまそやなー。いただきます。ん？ か、しょむねーぞいや。

こ と ば

- ◆ くどい：塩辛い。
- ◆ がんこな：すごい。
- ◆ でっけー（でかい）：大きい
- ◆ しょむねー（しょんねー）：味がうすい。

共通語では

つよし：好きなものを頼みなさい。今日は世話になったからおごるよ。

たかし：それなら、チャーシュー麺大盛りにするよ。いいかい？

つよし：おう。だけどお前食べられるのかい。

この店はスープが塩辛いという噂だよ。

たかし：大丈夫、大丈夫。食べられるよ。

店 員：はい、どうぞ。

つよし：すごいなあ。大きいチャーシューだな。

たかし：おいしそうだな。いただきます。

ん？これは、全然塩辛くないよ。味がうすいよ。

表 現

29. 「食べれる」 — 一段活用・カ変動詞の可能動詞形 —

- (82) 全部**食べれる**よ。(全部食べられるよ。)
- (83) 今夜流星が**見れる**よ。(今夜流星が見られるよ。)
- (84) もっと速い球**投げれる**やろ。(もっと速い球が投げられるだろ。)
- (85) 明日も**来れる**け？(明日も来られる？)

「～できる」ということを可能といいます。「見る」「食べる」(一段動詞)、「来る」(カ変動詞)の可能の形は、共通語では本来「食べられる」「見られる」「来られる」でしたが、金沢は早くから、「見れる」「食べれる」、「来れる」という言い方がよく使われている、「ら抜きことば」の先進地です。

最近では、全国的に、また共通語でも「見れる」「食べれる」「来れる」という形が広まっています。

また、「行く」「書く」「読む」など(五段動詞)の可能の形は「行ける」「書ける」「読める」ですが、金沢では「ら抜き」が進んだことで、可能表現を「～れる」の形でそろえようとして、早くから「行けれる」「書けれる」「読めれる」のような「れ足すことば」が生まれています。

- (86) 5時半までに**行けれる**け？(5時半までに行ける？)
- (87) 上手に**書けれる**ようになりたい。(上手に書けるようになりたい。)
- (88) これなら5分で**読めれる**よ。(これなら5分で読めるよ。)

練習問題

練習1 次の文の下線部を例のように金沢のことばに変えてみましょう。

例：服ぐらい1人で着られるわいね。

→ （着れる）

(1) 人が少ないさけゆっくり見られるわいね。

→ （ ）

(2) 明日忙しいし来られんげんけど。

→ （ ）

(3) 水に油は混ぜられんげんよ。

→ （ ）

練習2 次の文を金沢での言い方に変えてみましょう。

(1) もうちょっと字がうまく書けるようになりたいな。

→

(2) 準備できたからすぐに始められるよ。

→

(3) そんな高くては無理だよ。少し下げられないかな。

→

金沢ことば豆知識⑪

ゆれるイントネーション

金沢ことばでは、「あの〜」「ほやさけ〜」「行くんや〜」のように、主に文の途中の学校文法で言う文節の切れ目や一部の文末の「〜」の部分に、伸びてゆれる独特のイントネーションが聞かれます。このイントネーションは、福井県嶺北地方から石川県、そして富山県の平野部の広い範囲で聞かれるもので、元来近畿方言の影響を強く受け、それとの共通性を多く持つ北陸方言の中では、全国的にも北陸三県でしか聞けない独特のイントネーションとして貴重な特徴となっています。みなさんが、将来北陸以外の地方に移り住んだときなど、まわりからこのゆれるような独特のイントネーションが聞こえてきたら、北陸出身の人と考えてまず間違いないでしょう。

この全国的にも珍しい「ゆれる」特徴に注目して、研究者はこれまで「ゆすり音調」「波動音調」「うねり音調」（「音調」は「ゆすりイントネーション」のようにイントネーションと言い換えられる場合もあります）のような言い方で呼ばれてきました。また、このイントネーションが、東京のことばの「それでね」「だからさ」の「ね」「さ」などの間投助詞の役目をしているという考え方から「間投イントネーション」とも呼ばれています。

年配の人たちに比べると、若い人たちからはこの独特のイントネーションがあまり聞かれなくなったような気はしますが、ふだんの気楽な場面ではみなさんも思わず出ているかもしれません。アクセントもそうですが、こうした発音の特徴というのは、「ばか」を「だら」と言うといった語形の違いと比べると方言の特徴として意識しにくいものですから、意外に根強く使われているということもあります。まわりの友だちの話し方に、この独特のイントネーションが現れるかどうか、注意して聞いてみてください。

第12課 まだ袋に入っとるさけ、だんないやろ。

会 話

たかし：頼まれとった 雑誌 こーといたわ。

つよし：おう、あんやと。金 はろーても一わ。いくらや？

たかし：580 円や。

つよし：おいや、これ 今月号と ちごーぞいや。

たかし：ありゃー 先月号 こーて来ても一たがかいや。

つよし：よわったな。どーすっがいや？

たかし：まだ 袋に 入っとっさけ、だんないやろ。

替えてもろーてくるわいや。

こ と ば

- ◆ こー：買う
- ◆ はろー：払う
- ◆ ちごー：違う
- ◆ よわる：困る
- ◆ だんない：問題ない。

共通語では

たかし：頼まれていた雑誌を買っておいたよ。
つよし：ああ、ありがとう。お金を払ってしまうよ。いくらだい？
たかし：580 円だよ。
つよし：おい、これは今月号とは違うよ。
たかし：あらー、先月号を買ってきてしまったのかよ。
つよし：困ったな。どーするんだ？
たかし：まだ袋に入っているから、大丈夫だろう。
交換してもらってくるよ。

表 現

30. 「～とる」—動作の持続と結果の残存—

(89) 昨日から雪が降**とる**。(昨日から雪が降っている。)

(90) この冷蔵庫こわれ**とる**よ。(この冷蔵庫は壊れているよ。)

「～とる」は、何かの動きが続いていることを表したり、何か起こったことの結果がまだ残っていることを表します。共通語の「～ている」にあたる表現です。

31. 「～とく」—準備・措置—

(91) 宿題は早めに終わらし**とく**。(宿題は早めに終わらせておく。)

(92) 暑いし窓あけ**とく**よ。(暑いから窓を開けておくよ。)

「～とく」は、何かを前もってやることを表したり、何かをそのままの状態にすることを表します。共通語の「～ておく」にあたる表現です。

32. 「～てもー」—残念・完了—

(93) 宿題やっ**てもー**てから遊ぶまっし。(宿題をやってしまってから遊びなさい。)

(94) 窓ガラス割っ**てもー**た。(窓ガラスを割ってしまった。)

「～てもー」は、何か動作を終わらせることを表したり、残念な気持ちを表します。共通語の「～てしまう」にあたる表現です。

練習問題

練習1 の中から選んで下線部をうめてみましょう。

とる	とく	てもー
----	----	-----

- (1)このテキスト、変わっ_____ね。
(2)電話し_____間に、暗くなっ_____た。
(3)メールアドレスはもう聞い_____さけ、ゆいちゃんには私から連絡し_____わ。
(4)みさき：この話、さくらには黙っ_____ようにって言われとってんけど、つい言っ_____たわ。
さくら：なーん、聞かんかったことにし_____。

練習2 次の文を金沢のことばに変えてみましょう。

- (1)雪が降っているよ。
→ ()
(2)あそこに財布が落ちている。
→ ()
(3)本を読んでいたら、眠くなってしまった。
→ ()
(4)汚れてしまっていたあの体操服、洗っておいたよ。
→ ()

金沢ことば豆知識⑫

新しく生まれる方言（新方言とネオ方言）

テレビが普及した 1960 年代以降、日本の方言は若い世代を中心に急速に衰退し、共通語化が進んできました。

しかし、1980 年代頃からは、方言の衰退を惜しむ人や、方言を地方の文化として大切にしなければならないといった意見をもつ人が増えてきて、方言の見直しが盛んになりました。そして、そうした見直しの影響もあって、地域では方言が共通語化するばかりでなく、新しい方言も生まれています。

たとえば金沢で新しい方言が生まれる場合、そこでは二つのケースが見られます。一つは、共通語とは無関係に金沢で独自に新しい方言が生まれる場合、もう一つは、金沢ことばが共通語の影響を受けて、金沢ことばと共通語の両方が混ざったような中間的な形ができる場合です。新しい方言の中でも前者のようなものを「新方言」、後者のようなものを「ネオ方言」と呼んでいます。

金沢ことばの「新方言」の例としては、この本の第 3 課で取り上げた「げん」、そしてそれがもとで生まれた「～ねん、～てん、～れん」などが代表的なものです。年配の人たちが使っていた「いじくらしい」が変化した「いじっかしい」もそうです。

一方、「ネオ方言」の例には、「書かんかった」「見んかった」などの「～んかった」の形、「行けんくなった」「見れんくなった」などの「～んくなった」などがあります。もともとは「書かなんだ」でしたが、共通語の「書かなかった」の影響を受けて、否定の言い方の方言形「書かん」と「～かった」が混ざってできた形です。「行けんなくなった」も方言形「行けん」と共通語「行けなかった」の「～なくなった」が混ざった形です。

「ネオ方言」は、方言の勢いが強いと言われる関西地方や九州地方の方言が変化するとき、全面的な共通語化に抵抗して一部だけ共通語を受け入れた形として生まれやすいと言われます。いずれにしても、「新方言」や「ネオ方言」が今も生まれるというのは、その方言にまだ元気があるということだと思えるのです。金沢のことばがただ共通語化するだけでなく、これからも新しい方言を生み出すためには、みなさんのような若い人たちが方言に自信をもち、愛着をもつことが必要なのです。

第13課 みそ汁こぼいても一た。

会 話

たかし：あー。まにおわんがいや。なんで 起こいてくれんがー。

ふみこ：なんべんも 起こいたがいね。

たかし：嘘やろ。なんも 気づかんかったぞいや。

ふみこ：まあ、はよ 朝ご飯 食べまっしや。

たかし：あー。みそ汁 こぼいても一た。

ふみこ：あらー ちゃわちゃわと。ちーんと しとんまっしま、いじくらしい。

たかし：ほんなこと ゆーてー、遅刻したら どーすっがいや。

ふみこ：かさだかな、ちょっこしくらい 遅れても だんないわいね。

こ と ば

- ◆ まにおあん：間に合わない。
- ◆ なんべん：何回。
- ◆ ちゃわちゃわ：落ち着きがないさま。
- ◆ ちーんと：おとなしく。行儀良く。
- ◆ いじっかしい：うっとうしい。
- ◆ かさだか：大げさ。
- ◆ だんない：大丈夫。平気。問題ない。

共通語では

たかし：ああ。間に合わないよ。どうして起こしてくれないんだよー。

ふみこ：何回も起こしたよ。

たかし：嘘だろ。何も気がつかなかったよ。

ふみこ：まあ、早く朝ご飯を食べなさい。

たかし：ああ。みそ汁こぼしてしまった。

ふみこ：あらあ、落ち着きがないね。おとなしくしてなさいよ、うっとうしい。

たかし：そんなこと言って、遅刻したらどうするんだい。

ふみこ：大げさな、少しくらい遅れても大丈夫だよ。

表 現

33. 「出いた」 — サ行五段動詞のイ音便化 —

(95) ゴミならもう出いたわ。(ゴミならもう出したよ。)

(96) 財布落といても一た。(財布を落としてしまった。)

「出す」「落とす」の「～た」という形は、共通語では「出した」「落とした」ですが、金沢方言では「出いた」「落といた」となります。しかし、「貸す」「押す」などは共通語と同じ「貸した」「押した」です。

最近では共通語の影響をうけて、「出す」「落とす」であっても共通語と同じ「出した」「落とした」と言うことが増えているようです。

イ音便化しやすい動詞	イ音便化しにくい動詞
ほいた (干した)	たした (足した)
もやいた (燃やした)	むした (蒸した)
かくいた (隠した)	なした (為した)
こぼいた (こぼした)	けした (消した)
こわいた (壊した)	こした (越した)
はないた (離した)	ふした (伏した)
うついた (写した)	めした (召した)
おこいた (起こした)	よした (止した)
さがいた (探した)	たやした (絶やした)
すまいた (すました)	ちらした (散らした)
ずらいた (ずらした)	ねざした (根ざした)
たらいた (垂らした)	もうした (申した)
なかいた (泣かした) など多数	

練習問題

練習1 次の下線部を例のように金沢のことばに変えてみましょう。

例：机の中を全部探した。 → （ さがいた ）

(1)小さい子を泣かしたらだちゃかんげんぞ。

→ （ ）

(2)明日の朝、5時に起こして。

→ （ ）

(3)あとで見るし、テーブルの上に出しておいて。

→ （ ）

(4)見つからんように、はよ隠して！

→ （ ）

練習2 次の下線部を金沢のことばに変えてみましょう。

(1)はるか：ここに置いといた封筒、見んかった？探しても探してもないげんけど。

→ （ ）

母：あ、ほの封筒やったらごみに出したかも知れん。

→ （ ）

はるか：えー！

(2)ななみ：昨日、家で干したばかりの布団の上にお茶こぼしても一たうえ。

→ （ ） → （ ）

ももか：ほーなん！？

金沢ことば豆知識⑬

がんこな

「あらーあんだ、がんこなー。」

「あんだの方こそ、がんこながにしてー。」

これは派手な服装をした女性同士が、お互いの服装について「派手すぎる」ということを主張し合っている場面の会話です。

共通語の「がんこな」は「頑固な（強情な）おじさん」や「頑固な（しつこい）水虫」などのように使われますが、金沢では「びっくりするほど程度がはなはだしい」といった意味を基本に、以下のような微妙に異なるさまざまなニュアンスで使われます。

（大盛のらーめんが運ばれてきて）あらーがんこなー。

（朝、窓を開けたら、物凄い積雪量だった）がんこな雪やなー。

（兼六園の満開の桜を見て）がんこながに咲いとるなー。

（車が急発進するのを見て）あらーがんこな運転やなー。

（携帯電話を床に放り投げるのを見て）ほんな、がんこなことすんなまいや。

また、最近若い人たちの間では「がんこ寒い」「がんこうまい」のように形容詞の前につけて「すごく～」という意味で「がんこ」が使われています。基本的には「がんこな」という形容動詞型で使われるものですが、若い人たちは副詞としての「がんこ（「とても」に近い意味で）も使い始めています。

付録1：石川の方言と金沢ことば—概説—

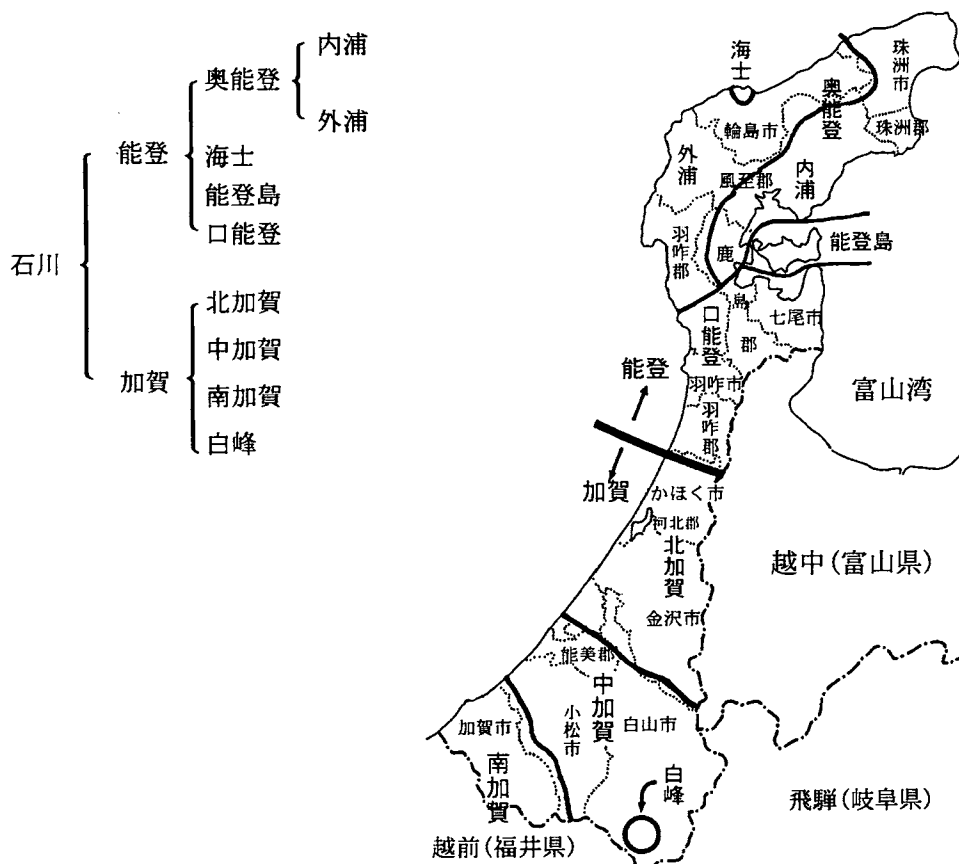
ちょっと難しいげんけど、読んでみてま！

1. 全国の方言から見た石川の方言の位置

日本の方言を、共通することばの特徴によって大きく分けると、まず本土方言と琉球方言の二つに分かれます。そして、九州よりも北の本土方言は東部方言、西部方言、九州方言の三つに分けるのが一般的です。金沢ことばを含む石川県の方言は、新潟県の佐渡、富山県、福井県嶺北地方の方言とともに北陸方言としてまとめられ、そのうちの西部方言に属します。このことは、北陸方言が、かつての中央語地域であった近畿地方の方言の影響を強く受け続けてきたことを示すものです。中でも、オル（居る）、カカ^ン（書かない）、イカ^ナンダ（行かなかった）、^ユータ（買った）、ア^ユナル（赤くなる）、アメ^ヤ（雨だ）、フットル（降っている）、フルサカイ（降るから）などの文法的特徴における近畿方言との共通性がそのことをよく示しています。

石川県内の方言は、その違いの大きさから、北の能登の方言（羽咋郡から北）と南の加賀の方言（かほく市から南）に大きく分けられますが、加賀の方言はさらに、かほく市以南で手取川以北の金沢市、野々市町、旧松任市を中心とした北加賀方言と、手取川以南の白山市、能美市、小松市を中心とした中加賀方言と、加賀市、山中町の南加賀方言の三つに分けることができます。

<石川県の方言区画図>



2. 加賀の方言

加賀地方の方言は、京都の言葉が北国街道沿いに福井県を經由して伝わったものを基礎としています。

北加賀方言は加賀百万石の城下町として独自の方言をはぐくんだ金沢ことばの影響を強く受けていて、城下町の複雑な社会構造や京都との直接の交渉を背景とした「～マサル」などの敬語表現、そして挨拶表現や語彙などに特色があります。

加賀市を中心とする南加賀方言は、北加賀・中加賀方言でカクマサル・カクマッシャル（お書きになる）、シマッシ（しなさい）、イクガヤ（行くのだ）となるところが、カキナル、シネー、イクンヤとなるなど、福井県の嶺北方言と共通する特徴が多くなります。

小松市方言を中心とする中加賀方言は、南加賀方言に連続する特徴ももつと同時に、金沢ことばを中心とする北加賀方言の影響も受け、両方の中間的性格を示します。なお、中加賀方言のうちでも白山麓の方言は、ゴザル（「居る、行く、来る」の尊敬語）などの歴史的に古いことばも見られ、中でも白峰方言はギラ（私）、ノイノ（さようなら）、～ Chol・～ Jol（～ている）、ノ一ダ（飲んだ）など、ほかの加賀地方の方言とは異なる特徴や古い状態を残したものが多く、言語の島として研究者からも注目されてきました。

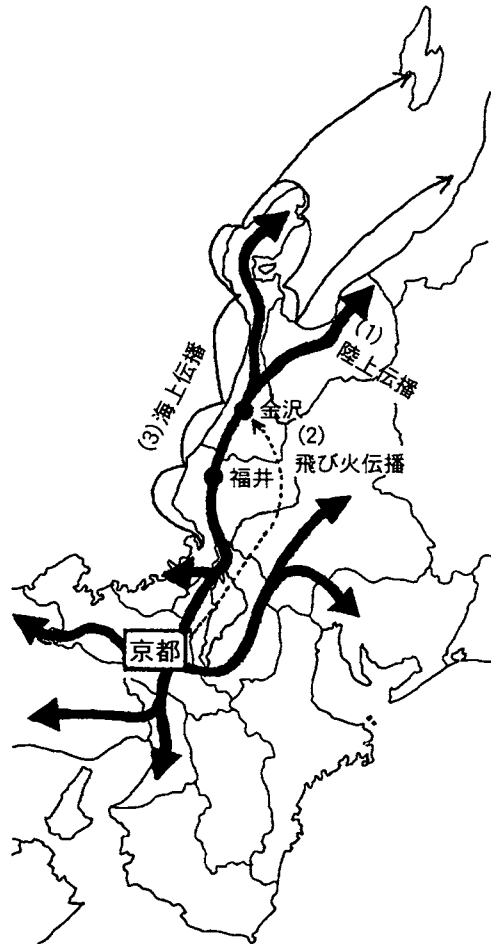
加賀地方のアクセントはおおよそ京阪式

アクセントに近い姿を示し、大まかには北加賀方言と南加賀方言でタイプが違っているものの、2拍名詞を例にとると、2拍目の音節の音声的条件（子音の有声・無声、母音の広狭）に影響されるという複雑な規則がある点で共通しています。

最近では、加賀地方の方言も、若い世代を中心に伝統的な方言の衰退と共通語化が確実に進んでいます。しかし、そんな中で今も根強く受け継がれている方言もあり、また、イーゲンテ（いいんだよ）の「～ゲン」のように、伝統的方言が変化した方言、イケンクナッタ（行けなくなった）のように共通語の影響を受けて生まれた方言と共通語の中間的な方言などの新しい方言も生まれています。

加賀の方言の地域差は今後も少しずつ少なくなり、地方共通語としての役割を担う金沢市の方言に似た姿に近づいていくことが予想されます。

<京都方面からのことばの伝播経路>



3. 能登の方言

能登の方言は、加賀の方言と同じように、特に文法的特徴について近畿方言との共通性が多く見られます。県内の伝統的方言の分布では、かほく市と羽咋郡の境あたりに、ウラーオラ（私）、ギャフズーギャット（蛙）、カザーフガ・ホガ（匂い）、ナーンーベッチャ（いいえ）、クドイーカライ（塩辛い）などの境界線が集中しており、そこを境に南の加賀の方言と北の能登の方言にまず大きく分けられます（－を挟んで左が加賀の方言形で右が能登の方言形です）。

能登の方言は、さらに口能登方言と奥能登方言に分けられます。口能登方言は富山県方言、奥能登方言は新潟県の佐渡方言との共通性が多く見られます。奥能登方言は輪島市を中心とした外浦方言と、富山湾側の内浦方言に分けることができます。江戸時代に九州の福岡からの集団移住があったと伝えられる輪島市海士町の方言は、以前は九州方言的特徴が認められるなど、輪島市の周囲の方言とは違っていました。

能登の方言分布を見ると、かつての中央語地域である近畿地方からの語の伝播が、福井県から街道沿いに加賀地方を経由して陸路で能登地方に伝わるという基本的なパターンのほか、金沢を中心とする加賀地方を経由せずに、福井県から直接海路で能登に伝播したと思われるものがあります。前者の場合は、一般に能登の方言は加賀の方言に比べて歴史的に古いものであり、一方、後者の場合には、海路で伝わった能登の方言の方が加賀の方言よりも歴史的に新しいと思われる例もあります。金沢を中心とした加賀地方では使われない「(病気などで) 体がつらい」ことを表すテキナイ（口能登）・チキナイ（奥能登）、「氷柱」のボーダレ（奥能登）などは、いずれも福井からの海上伝播によって能登に伝わった例と考えられます。能登半島先端部の珠洲の方言には、「～ノキャ」「～ワキャ」などの独特の文末表現が聞かれ、高年層では北陸方言には珍しい能力可能と条件可能の区別（書ケーウエル・着ーウエル＜能力可能＞ー書ケル・着ラレル＜状況可能＞）が存在します。

音声的特徴には、まず発音の面で、富山県沿岸部に続く口能登から奥能登の内浦地域の高年層方言に、シ・ス、ジ・ズ、チ・ツがそれぞれ同音となる東北方言のズーズー弁に似た発音が聞かれます。日本語の古い発音である合拗音クッ・グッ、セ・ゼにあたるシェ（「へ」となる地域も）・ジェが広い範囲で聞かれ、イ段とエ段の混同（～ネく～に＞など）、ウ段とオ段の混同（オサギく兎＞など）も聞かれます。アクセントの分布は複雑です。大まかには口能登と奥能登（珠洲市を含む内浦）が京阪式アクセントで、京都の古いアクセントに似たものが聞かれます。奥能登でも外浦は京阪式が変化した曖昧なアクセント、能登島の一部には東京式アクセントも分布します。

4. 金沢ことば

狭い意味での金沢ことばとは、江戸時代に加賀百万石の城下町金沢で形成された、やや洗練されたことばをさします。従来、金沢ことばというと、お城の周辺の町屋、旅館、茶屋街などで使われることばだけを取り上げることが多かったのは、この考え方によるものです。

一方、現在の金沢ことばと言えば、金沢市の全域で使われていることばの総体をさして、広い意味での金沢ことばがこれに当たります。

金沢ことばは、加賀地方の方言を北加賀方言・中加賀方言・南加賀方言の三つに分けた場合の

北加賀方言の中心的存在です。長く中央語であり続けた京都ことばが北国街道沿いに伝わったものを基礎としながら、そこにかつての城下町としての複雑な社会構造と京都との直接的交渉、さらに近代以降の北陸の中核都市としての性格が、周囲の加賀の方言とはやや一線を画する金沢言葉をも育んだと考えることができます。様々な階層、職種の人が混在した城下町では、人間関係を円滑にするための敬語表現や挨拶表現が一般的に発達しやすく、金沢ことばもまた例外ではありませんでした。オココロアリヤコソ、ヨーコソ オイデアソバセ（お心にかけていただいております、ようこそおいで下さいました）、アンヤトゴザイミス（ありがとうございます）、サッキ カエルマシタガヤ（さっき、お帰りになりましたよ）、オイデマス（いらっしゃる）、ゴキミツツァン（ご丁寧に、ありがとうございます）、オユルッシュ（よろしく）など、かつては豊富な敬語表現、挨拶表現が使われていましたが、現在では敬語助動詞「～マサル」の命令形にあたる「～マッシ」が「～なさい・～ましょう」に当たる優しい命令・勧誘の表現として、また、オイデマスが共通語意識で使われ続けているほかは、いずれもほとんど使われなくなっています。金沢ことばに特徴的な語彙には、キンカンナマナマ（雪道が凍ってつるつるになった状態）、ゴッポ（下駄の齒の間にはさまった雪の固まり）、オカベ（豆腐）、ハベン（蒲鉾）など、金沢の風土や生活に根付いたものも少なくありませんが、これらもまた若い世代では使われなくなっています。こうした狭い意味での金沢ことばの表現や語彙が衰退しつつある中で、金沢ことばは今後、広い意味での金沢ことばとして、ほかの北加賀方言と共通する特徴をもとにしながら、～ゲン（～ネン・～レン・～テン）に代表されるような新しい方言の発信源として、共通語の影響も強く受けながら、石川県内の地方共通語としての役割を担っていくに違いありません。

付録2：同一例文の3世代（男女別）金沢ことば訳

※ここでは、同じ共通語の例文を、金沢市内在住の三世代同居家族7名に、それぞれが普段使っている金沢方言に翻訳してもらったものです。金沢方言の世代的变化と性差について観察するための一つの事例として参考にしていただければと思います。皆さんだったらどんな方言になるか考えてみましょう。

【共通語】

- (1) A：夏休みはどこへ行くんだ？
B：沖縄へ行くんだ。
- (2) A：夏休みはどこへ行っていたんだ？
B：沖縄へ行っていたんだ。
- (3) A：夏休みは何をするんだ？
B：海水浴するんだ。
- (4) A：へえ、夏休みも仕事なんだ？
B：そうなんだ、仕事なんだ。
- (5) 雨が降りそうだから行かないよ。
- (6) 悲しいから泣くんだよ。
- (7) 犯人は私ではないよ。
- (8) あれは犬ではない。
- (9) 呼んでいるのに返事もしない。
- (10) 来れば良かったのに。
- (11) あんなに約束したのに。
- (12) 約束は守らなくてはならない。
- (13) 全部食べなくてはならない。
- (14) 早くしろよ。(強く言うとき)
- (15) 少しも勉強しない。
- (16) 宿題しなかった。
- (17) 時計が動かなくなる。
- (18) テレビが映らなくなる。
- (19) 昨日は風呂に入らなかった。
- (20) 先生とは会わなかったよ。
- (21) うちに寄りなさいよ。(誘う感じ)
- (22) 時間はあるからゆっくり書きなさい。(やさしく)
- (23) 試験がんばりなさいよ。(やさしく)

【金沢方言訳】

男性 1921 年生まれ

- (1) A：夏休みはどこへ行くがや？
B：沖縄へ行くがや。
- (2) A：夏休みどこ行っとながや？
B：沖縄行っとながや。
- (3) A：夏休みなんするがや？
B：海水浴するがや。
- (4) A：へえ、夏休みも仕事ながか？
B：おいや、仕事ながや。
- (5) 雨が降りそうやさかい行かん。
- (6) 悲しいさけ泣くがや。
- (7) 犯人はわしでねーわいや。
- (8) あれは犬ねーわいや。
- (9) 呼んどのがに返事せん。
- (10) 来れば良かったがに。
- (11) あないに約束したがに。
- (12) 約束は守らなならん。
- (13) 全部食わなならん。
- (14) はよ、せーや。(せんかいや。／せーま。)
- (15) ちょっこも勉強せん。
- (16) 宿題せなんだ。
- (17) 時計がいのかんようになる。
- (18) テレビがいのかんようになる。
- (19) 昨日は風呂に入らんだ。
- (20) 先生と会わんだ。
- (21) うちに寄れいや。
- (22) 時間あるさかいゆっくり書けや。
(書くまっし。)
- (23) 試験がんばれや。(がんばるまっし。)

女性 1926 年生まれ

- (1) A：夏休みどこへ行くがいや？
B：沖縄へ行くがや？
- (2) A：夏休みどこへ行っとながや？
B：沖縄へ行っとながや。
- (3) A：夏休みな何するがいや？
B：海水浴するがや。
- (4) A：へえ、夏休みも仕事ながや？
B：ほーながや、仕事ながや。
- (5) 雨が降りそうやさけ行かんよ。
- (6) 悲しいさかい泣くがや。
- (7) 犯人は私でないわ。
- (8) あれは犬でない。
- (9) 呼んどのがに返事もせん。
- (10) 来れば良かったがに。
- (11) あんなに約束したがに。
- (12) 約束は守らなならん。
- (13) 全部食べにやならん。
- (14) はよ、せーまいや。(早くせんかいや。)
- (15) ちょっこしも勉強せん。
- (16) 宿題せんかった。
- (17) 時計が動かんようになる。(動かんがになる。)
- (18) テレビが映らんようになる。(映らんがになる。)
- (19) 昨日は風呂に入らんだ。
- (20) 先生と会わんだ。
- (21) うち寄ってかんか？(寄りまっし。)
- (22) 時間あるさかいゆっくり書けいや。
(書くまっし。)
- (23) 試験がんばれよ。(がんばりまっし。)

男性 1953 年生まれ

(1) A：夏休みはどこ行くがんけ？

B：沖縄へ行くがや。

(2) A：夏休みはどこへ行っと思ったんや？

B：沖縄へ行っと思ったんや。

(3) A：夏休みは何をするがんけ？

B：海水浴するがや。

(4) A：へえ、夏休みも仕事なんけ？

B：そや、仕事なんや。

(5) 雨が降りそうやさかい行かんわ。

(6) 悲しいから泣くがや。

(7) 犯人は私ではないっちゃ。

(8) あれは犬とはちゃう。

(9) 呼んだるがに返事もせん。

(10) 来れば良かったがに。

(11) あんなに約束しとったがに。

(12) 約束は守らんなん。

(13) 全部食べなあかん。

(14) 早うせえ。

(15) 少しも勉強せん。

(16) 宿題せんかった。

(17) 時計が動かんようになった。

(18) テレビが映らんようになった。

(19) 昨日は風呂に入らんかった。

(20) 先生とは会わんかったよ。

(21) うちに寄ってかんか？

(22) 時間あるさかいゆっくり書くまっし。

(23) 試験がんばってや。

女性 1958 年生まれ

(1) A：夏休みどこ行くがん？

B：沖縄行くげん。

(2) A：夏休みどこ行ってきたん？

B：沖縄行っと思ったんや。

(3) A：夏休み何するがん？

B：海水浴するげん。

(4) A：へえ、夏休みも仕事なんや？

B：ほうや一、仕事ねん。

(5) 雨降りそうやし行かんわ。

(6) 悲しいさけ泣くんや。

(7) 犯人は私じゃない。

(8) あれは犬じゃない。

(9) 呼んだるのに返事もせん。

(10) 来ればよかったのに。

(11) あんなに約束したんに。

(12) 約束は守らんなん。

(13) 全部食べんなん。

(14) はよせ一ま。

(15) ちょっこも勉強せん。

(16) 宿題せんかった。

(17) 時計が動かんようになる。

(18) テレビが映らんがになる。

(19) 昨日、風呂に入らんかった。

(20) 先生とは会わなんだよ。

(21) うちに寄るまっし(寄ってくまっし)。

(22) 時間はあるさけゆっくり書くまっし
ね。

(23) 試験がんばるまっしね。

男性 1981 年生まれ

(1) A：夏休みどこ行くが？

B：沖縄行けん。

(2) A：夏休みどこ行っとったん？

B：沖縄行っと思ってん。

(3) A：夏休み何すらん？

B：海水浴すれん。

(4) A：へえ、夏休みも仕事なんや？

B：ほーねん、仕事ねん。

(5) 雨降りそうやし行かんわ。

(6) 悲しいし泣くげん。

(7) 犯人は俺じゃないよ。

(8) ありや犬じゃない。

(9) 呼んどるんに返事もせん。

(10) 来れば良かったんに。

(11) あんなに約束したんに。

(12) 約束は守らんなん。

(13) 全部食べんなん。

(14) はよろま。

(15) なーんも勉強しん。

(16) 宿題しんかった。

(17) 時計が動かんくなる。

(18) テレビが映らんくなる。

(19) 昨日風呂に入らんかった。

(20) 先生と会わんかった。

(21) うちに寄るまっし。

(22) 時間あるしゆっくり書きまっし。

(23) 試験がんばりまっし。

女性 1983 年生まれ

(1) A：夏休みどこ行くん？

B：沖縄に行くげん。

(2) A：夏休みどこ行っとったん？

B：沖縄に行っと思ってん。

(3) A：夏休み何するん？

B：海水浴するげん。(すれん。)

(4) A：えっ、夏休み仕事なん？

B：そうねん、仕事ねん。

(5) 雨降りそうやし行かんわ。

(6) 悲しいし泣くげん。

(7) 犯人は私じゃないよ。

(8) あれは犬じゃない。

(9) 呼んどるんに返事もせん。

(10) 来ればよかったに。

(11) あんなに約束したんに。

(12) 約束は守らんなん。

(13) 全部食べんなん。

(14) 早くして。

(15) ちっとも勉強しん。

(16) 宿題せんかった。

(17) 時計が動かんくなる。

(18) テレビが映らんくなる。

(19) 昨日お風呂に入らんかった。

(20) 先生とは会わんかったよ。

(21) うち寄ってかんか。(寄りまっし。)

(22) 時間あるからゆっくり書かんか。

(書きまっし。)

(23) 試験がんばってね。(がんばるまっし。)

男性 1986 年生まれ

(1) A：夏休みどこ行くん？

B：沖縄行けんけど。

(2) A：夏休みどこ行っとなん？

B：沖縄行っとなん。

(3) A：夏休み何するん？

B：海水浴すれんけど。

(4) A：へえ、夏休みも仕事なんや？

B：そうねんて、仕事ねんて。

(5) 雨降りそうやし行かんわ。

(6) 悲しいから泣くんやよ。

(7) 犯人は私じゃないって。

(8) あれは犬じゃないよ。

(9) 呼んどるんに返事もせん。

(10) 来れば良かったんに。

(11) あんなに約束したんに。

(12) 約束は守らんなんよ。

(13) 全部食わんなん。

(14) 早くしろま。

(15) 少しも勉強せん。

(16) 宿題せんた。(せんかった。)

(17) 時計が動かんくなる。

(18) テレビが映らんくなる。

(19) 昨日風呂に入らんかったよ。

(20) 先生とは会わんだよ。

(21) うち寄ってかん？(寄りまっし。)

(22) 時間あるしゆっくり書けばいいよ。

(書きまっし。)

(23) 試験がんばってな。(がんばりまっし。)

◇金沢ことばについて学ぶための参考文献◇

※ここでは、1980年代以降のもので、今も公共図書館等で見ることのできそうなものを中心に、金沢ことばについて参考になりそうなものを発行年順に紹介します。

- 川本栄一郎（1983）「石川県の方言」『講座方言学 6 中部地方の方言』国書刊行会
- 志受俊孝（1983）『金沢の方言—金沢弁のいろいろ—』北国出版社
- 島田昌彦（1989）「金沢のことば」『金沢市史（現代編）続編』金沢市
- 川本栄一郎（1992）「石川県方言」『現代日本語方言大辞典 第1巻』明治書院
- 加藤和夫（1995）「隠れた方言コンプレックス」『変容する日本の方言』大修館書店
- 北國新聞社編集局編（加藤和夫編集協力）（1995）『頑張りまっし金沢ことば』、北國新聞社
- 島田昌彦（1998）『加賀城下町の言葉』能登印刷出版部
- 加藤和夫（1999）『ビデオ「金沢ことば」の解説』金沢市教育委員会
- 加藤和夫（1999）「日本の方言探訪⑤ 石川編」『月刊言語』1999年5月号 大修館書店
- 加藤和夫・新田哲夫（1999）「方言の風景—金沢に育まれた方言の伝統と新生—」『平成11年度金沢大学放送講座 テレビ「知の集積回路：プロジェクト「金沢」」テキスト、金沢大学大学教育開放センター
- 佐藤和之・米田正人編著（1999）『どうなる日本のことば—方言と共通語のゆくえ』、大修館書店（加藤和夫ほか10名執筆）
- 加藤和夫（2000）「金沢方言に見る『方言進化論』—方言は本当に衰退しているのか—」、『北國文華』第5号、北國新聞社
- 加藤和夫（2001a）「北陸方言のオノマトペ—道がキンカンマナマヤジー—」、『月刊言語』2001年8月号、大修館書店
- 加藤和夫（2001b）「近畿に共通する方言」『月刊北國アクタス』2001年11月号、北國新聞社
- 前田武輝（2001）「日常生活の言葉」、『金沢市史 資料編14 民俗』、金沢市
- 加藤和夫（2002）「日本海側の雪のことば—北陸地方の雪にまつわることば—」、『日本語学』2002年1月号、明治書院
- 加藤和夫（2003a）「〈小事典〉ふるさとのことば 石川県」『月刊言語』2003年1月号、大修館書店
- 加藤和夫（2003b）「北陸人の方言意識を探る—コンプレックスからの脱却をめざして—」『北國文華』第15号、北國新聞社
- 加藤和夫（2003c）「今も生きている金沢ことば（上）」、『おもしろ金沢学』、北國新聞社
- 前田武輝（2003）「今も生きている金沢ことば（下）」、『おもしろ金沢学』、北國新聞社
- 新田哲夫（2004）「石川県金沢方言のギャとその周辺」、『日本海沿岸の地域性とことば』、桂書房
- 加藤和夫（2004）「加賀の方言」「金沢言葉」「能登の方言」、『書府太郎（上巻）石川県大百科事典 改訂版』、北國新聞社
- 加藤和夫（2005a）「今も生きている金沢ことば（上）」、『新版 おもしろ金沢学』、北國新聞社
- 加藤和夫監修（2005b）『新 頑張りまっし金沢ことば』、北國新聞社
- 前田武輝（2005）「今も生きている金沢ことば（下）」、『新版 おもしろ金沢学』、北國新聞社
- 加藤和夫（2006）「北陸の方言と金沢ことば」、『きんしん』No. 110、金沢信用金庫顧客サービ

ス部

※図書、論文以外で参考になりそうなもの

- ・金沢市教育委員会（1996・1997・1998）『ビデオ金沢ことば』（全3巻）金沢市教育委員会
＊各巻15～20程度で金沢ことばが映像として記録されています。加藤が執筆した解説書付きです。
- ・「石川県ことばライブラリー」＊2003年、石川県立生涯学習センター1階に設置。現在は石川県庁展望ロビーに設置されています。全国の方言や金沢ことばを含む石川県内の方言についてパソコンで楽しく学べます。石川県の方言については「いしかわの方言会話（金沢方言―珠洲方言対照）」「いしかわの方言辞典」「いしかわの方言たたきゲーム」があり、加藤が監修しています。
- ・「金沢の方言」（<http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/hougen/>）＊金沢市のHP「いいねっと金沢」におさめられています。
- ・「みまっし、きくまっし 小松の方言」＊加藤は小松市立博物館方言調査委員会の委託を受けて1996年から2000年までの5年間、石川県小松市全域の方言調査を実施しました。その成果は小松市立博物館の研究紀要にも順次載せていますが、市民の方にも方言の魅力をわかりやすく伝えたいということで、小松市役所広報課に頼まれて、1998年4月から「広報こまつ」に「みまっし、きくまっし 小松の方言」という連載記事を毎月書いています。以下の「広報こまつ閲覧コーナー」の各号のページから、「小松の方言」該当ページをクリックしてご覧下さい。（PDFファイルです。）
（<http://www.city.komatsu.ishikawa.jp/kakuka/koho/kohokomatsu/kohokomatsudownload.asp>）
- ・MROラジオ・GOGOは本多町3丁目「典子のそこやとこ」（加藤和夫監修）ホームページ（<http://www.mro.co.jp/radio/gogo/sokoya/index.html>）

◇方言について学ぶための参考文献◇

※ここでは、石川の方言や金沢方言（金沢ことば）だけでなく、全国の方言について学ぶための入門的参考文献を挙げておきます。

柴田武（1988）『生きている日本語』講談社学術文庫

尚学図書編（1989）『日本方言大辞典』（全3巻）小学館 ＊加藤も下巻巻末の「音韻総覧」を分担執筆しています。

河出書房新社（1990）『ことば読本 方言と共通語』河出書房新社

佐藤亮一監修（1990）『郷土の研究 方言をしらべよう』（全10巻）福武書店

櫻本喜徳（1991）『おもしろ国語ゼミナール⁴ 全国方言たんけん』ポプラ社

方言資料研究会編（1994）『北から南 方言ものしり事典』啓明書房

すぎもとつとむ（1995）『方言風土記』雄山閣出版

佐藤亮一監修（1997）『日本の方言大研究』（全7巻）ポプラ社

川崎洋編（1998）『日本方言詩集』思潮社

江端義夫・加藤正信・本堂寛編（1998）『最新ひと目でわかる 全国方言一覧辞典』学研

三井はるみ監修（1998）『まんが方言なんでも事典』金の星社

杉本つとむ監修（1998）『クイズでわかる方言しらべ事典』学研

ハイパープレス（2000）『お国ことばのふしぎ大事典』青春出版社

佐藤亮一ほか編（2000）『NHK サービスセンターCD教材 日本の方言』学研

- 佐藤亮一編（2002）『都道府県別 全国方言小辞典』三省堂 *加藤が石川・福井の執筆を担当
佐藤亮一監修（2002）『お国ことばを知る方言の地図帳』小学館 *加藤も7人の共著者の一人
真田信治（2002）『方言の日本地図 ことばの旅』講談社+α新書
国立国語研究所編（2003）『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差－方言は今－』財務省印刷局
井上史雄・吉岡泰夫監修（2003・2004）『調べてみよう暮らしのことば』（全7巻）ゆまに書房
佐藤亮一監修・小学館辞典編集部編（2004）『標準語引き 日本方言辞典』小学館
真田信治（2005）『都道府県別 気持ちが伝わる名方言 141』講談社+α新書
真田信治（2007）『方言は気持ちを伝える』岩波ジュニア新書

※参考 WEB ページ

- 「ふるさとの方言」（<http://nlp.nagaokaut.ac.jp/hougen/>）*全国のたくさんの方言 WEB ページ
を見ることができます。
「全国方言 WEB ほべりぐ」（<http://hougen.atok.com/>）*各地の方言による文章作成を容易にした話し言葉対応辞書をおさめた ATOK を作成しているジャストシステムが運営しています。

日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)

課題番号 17520295

研究成果報告書

現代方言の記述に基づく方言学習教材作成のための基礎的研究

研究代表者 金沢大学・教育学部教授 加藤 和夫

平成 17 (2005) 年度 700,000円

平成 18 (2006) 年度 500,000円

日本学術振興会 科学研究費補助金 研究成果報告書

<方言学習教材シリーズ1>

みんなで学ぼう！金沢ことば

加藤 和夫（金沢大学教授）

2007（平成 19）年 3 月 31 日発行

非売品

連絡先：金沢大学教育学部国語教育講座（日本語学）

〒920-1192 石川県金沢市角間町

電話：076-264-5538 Fax：076-234-4101

E-mail：kkatoh@ed.kanazawa-u.ac.jp

URL：http://www.ed.kanazawa-u.ac.jp/~kkatoh/

印刷・製本：田中昭文堂印刷株式会社